1. 榎戸一号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　26′　13.96″	橋梁ID
				経度	139°　57′　38.99″	35.43721,139.96083
榎戸一号橋 (フリガナ)エノキドイチゴウハシ	奈良輪19号線	袖ケ浦市奈良輪902地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.6	奈良輪第一雨水幹線	有	一般道	三次	水道管

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2017年	21m	6.00m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、逆T式橋台2基		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

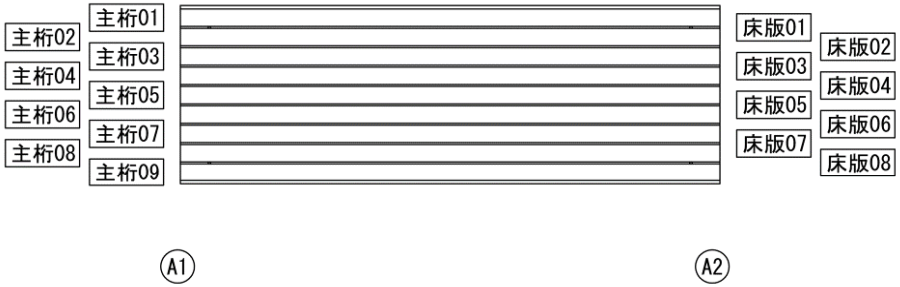
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

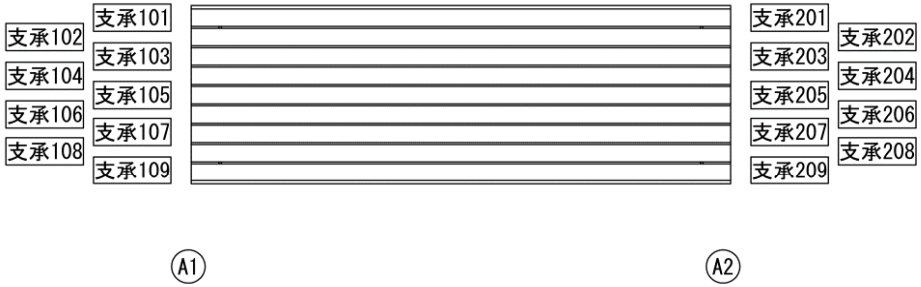
フリガナ 橋梁名	エノキドイチゴウハシ 榎戸一号橋	路線名	奈良輪19号線	所在地	袖ケ浦市奈良輪902地先

部材番号図

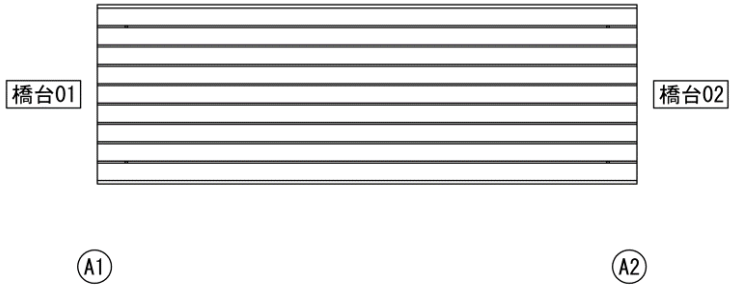
主桁・床版



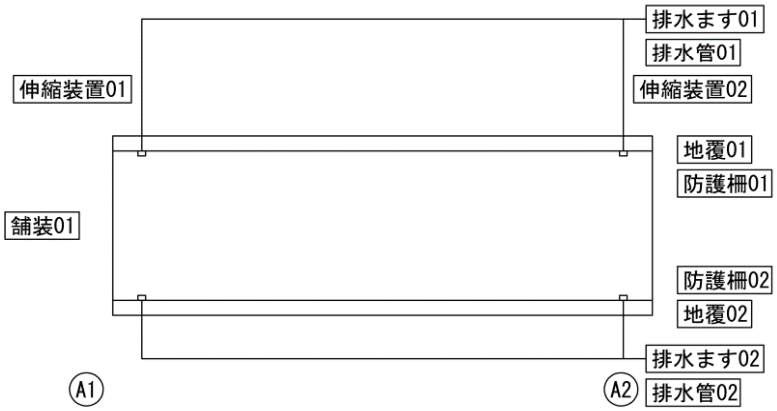
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



2.榎戸二号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　26′　12.41″	橋梁ID
				経度	139°　57′　34.85″	35.43678,139.95968
榎戸二号橋 (フリガナ)エノキドニゴウハシ	奈良輪18号線	袖ケ浦市奈良輪891地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.6	奈良輪第一雨水幹線	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2016年	11m	6.00m
橋梁形式		
SRC門型ラーメン橋、逆T式橋台2基		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

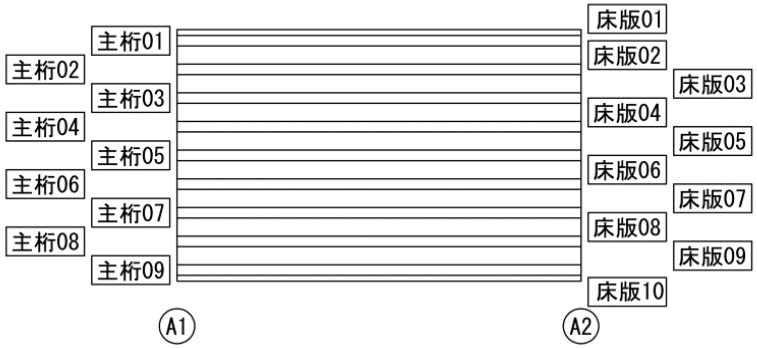
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

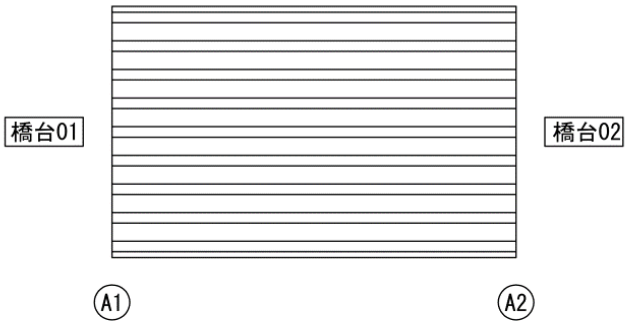
フリガナ 橋梁名	エノキドニゴウハシ 榎戸二号橋	路線名	奈良輪18号線	所在地	袖ケ浦市奈良輪891地先

部材番号図

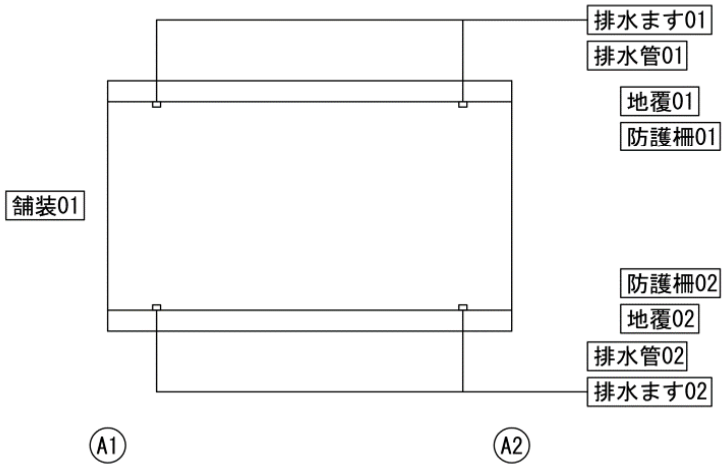
主桁・床版



下部工



防護柵・地覆・舗装・排水ます・排水管



3. 下谷橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　26′　10.90″	橋梁ID
				経度	139°　57′　30.64″	35.43636,139.95851
下谷橋 (フリガナ)シタヤハシ	奈良輪高須新田線	袖ケ浦市奈良輪872-1地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.6	奈良輪第一雨水幹線	有	一般道	三次	上水道,東京ガス NTT

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)　　定期点検者　開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2017年	11m	8.00m
橋梁形式		
SRC門型ラーメン橋、逆T式橋台2基		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

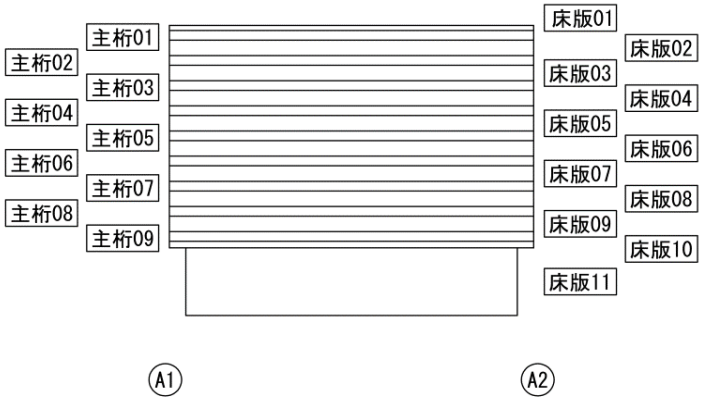
上部構造（　　）【判定区分：　　】	上部構造（　　）【判定区分：　　】
支承部【判定区分：　　】	その他（　　）【判定区分：　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

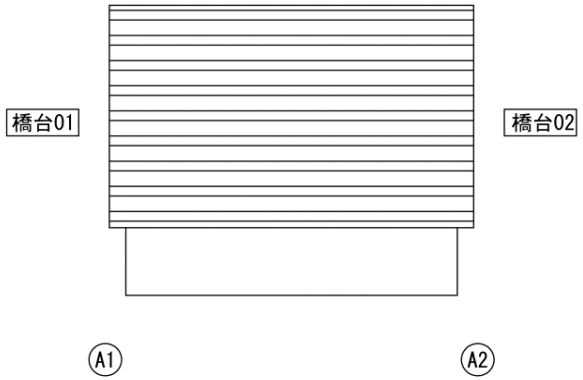
フリガナ 橋梁名	シタヤハシ 下谷橋	路線名	奈良輪高須新田線	所在地	袖ケ浦市奈良輪872-1地先

部材番号図

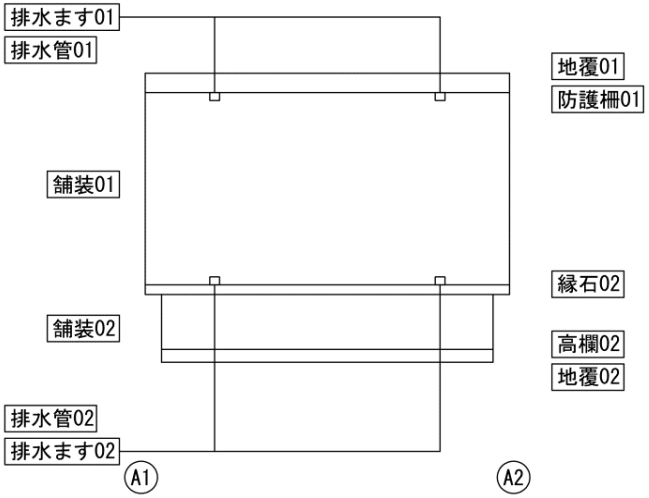
主桁・床版



下部工



高欄・防護柵・地覆・縁石・舗装・排水ます・排水管



4. 飯富１号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　57.60″	橋梁ID
				経度	139°　58′　36.55″	35.41600,139.97682
飯富1号橋 (フリガナ)イイトミイチゴウハシ	飯富18号線	袖ケ浦市飯富71地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.8	浮戸川	有	一般道	三次	不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1994年	21m	5.00m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

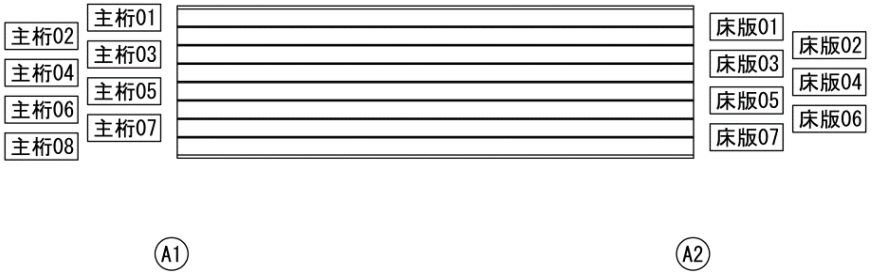
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-１　部材番号図	径間番号	1

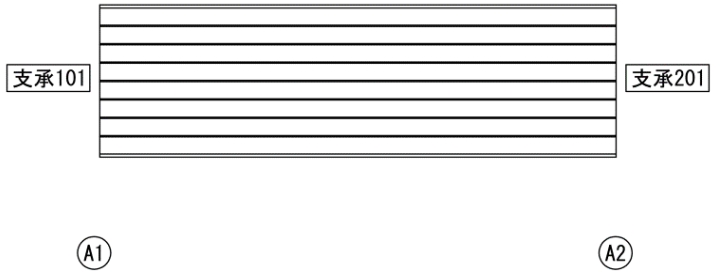
フリガナ 橋梁名	イイトミイチゴウハシ 飯富１号橋	路線名	飯富18号線	所在地	袖ケ浦市飯富71地先

部材番号図

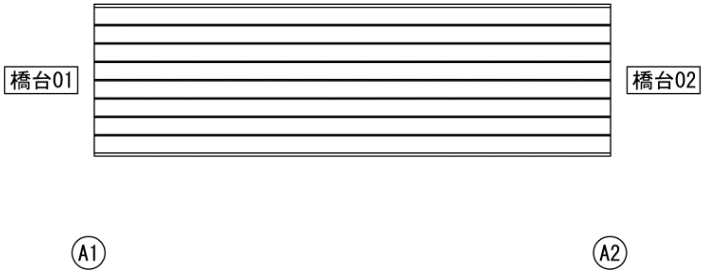
主桁・床版



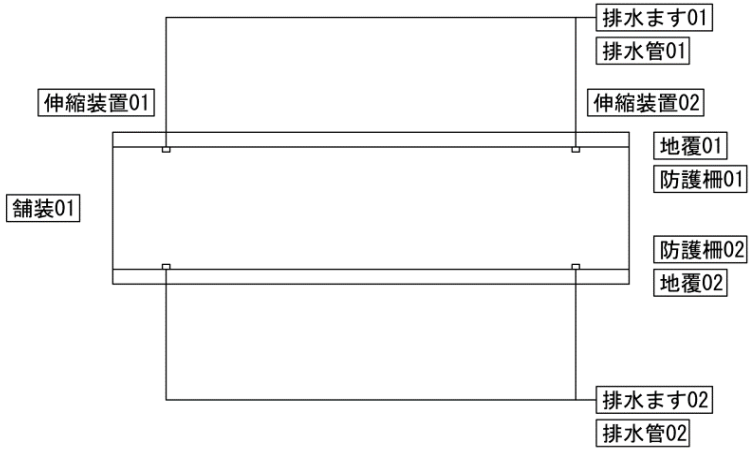
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



5. 飯富第２号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　47.92″	橋梁ID
				経度	139°　59′　02.40″	35.41331,139.98400
飯富第2号橋 (フリガナ)イイトミダイニゴウハシ	飯富20号線	袖ケ浦市飯富919地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.8	浮戸川	有	一般道	三次	水道管、上水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1996年	21m	5.00m
橋梁形式		
PC単純プレテンT桁橋、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

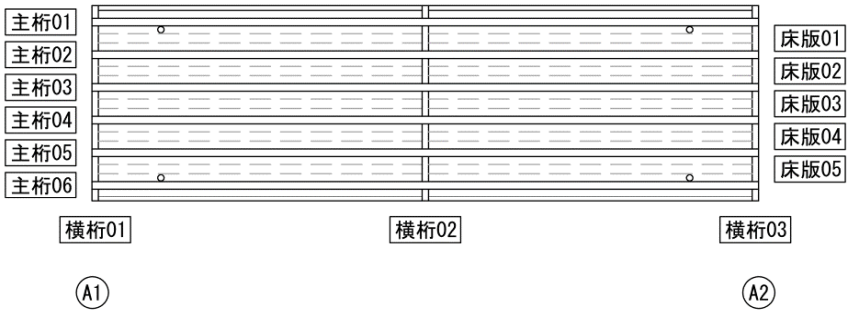
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-１　部材番号図	径間番号	1

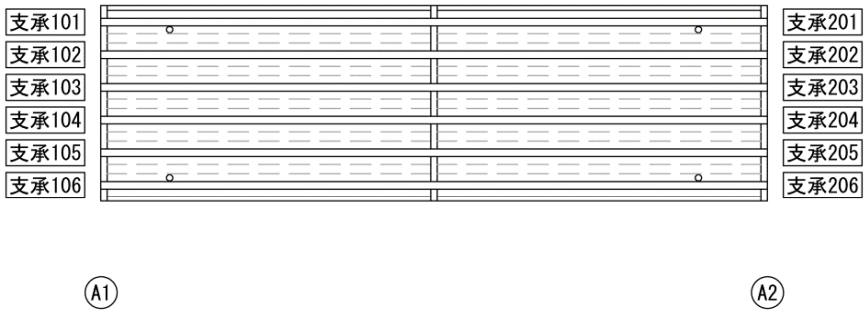
フリガナ 橋梁名	イイトミダイニゴウハシ 飯富第２号橋	路線名	飯富20号線	所在地	袖ケ浦市飯富919地先

部材番号図

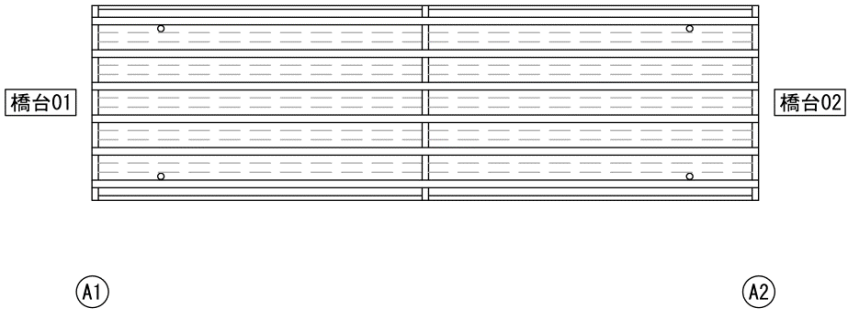
主桁・横桁・床版



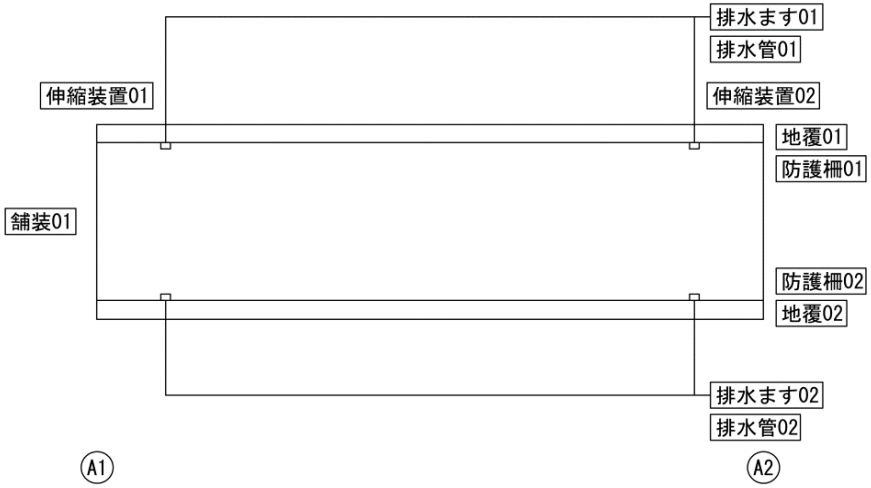
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



6. 飯富３号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　43.27″	橋梁ID
				経度	139°　59′　15.25″	35.41202,139.98757
飯富3号橋 (フリガナ)イイトミサンゴウキョウ	飯富27号線	袖ケ浦市飯富1110地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.8	浮戸川	有	一般道	三次	不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2002年	18m	5.00m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2　様式1様式2　　様式2

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

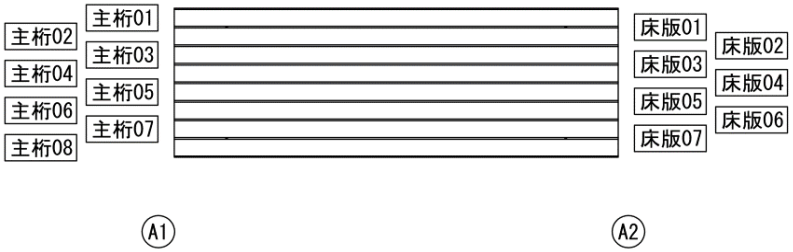
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-１　部材番号図	径間番号	1

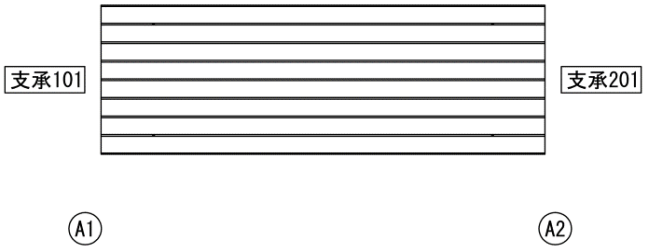
ﾌﾘｶﾞﾅ 橋梁名	イイトミサンゴウキョウ 飯富３号橋	路線名	飯富27号線	所在地	袖ケ浦市飯富1110地先

部材番号図

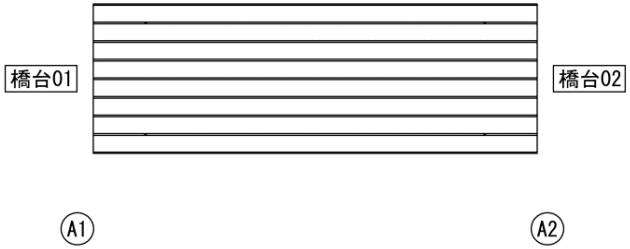
主桁・床版



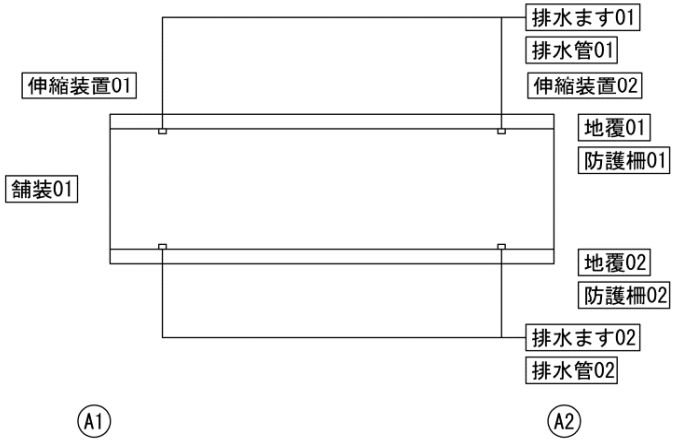
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



7. 下新田橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　37.44″	橋梁ID
				経度	139°　59′　42.72″	35.41040,139.99520
下新田橋 (フリガナ)シモニッタハシ	下新田7号線	袖ケ浦市下新田8-1地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.8	浮戸川	有	一般道	三次	不明(2条)

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)　　定期点検者　開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1994年	14m	9.33m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2　様式1様式2　　様式2

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

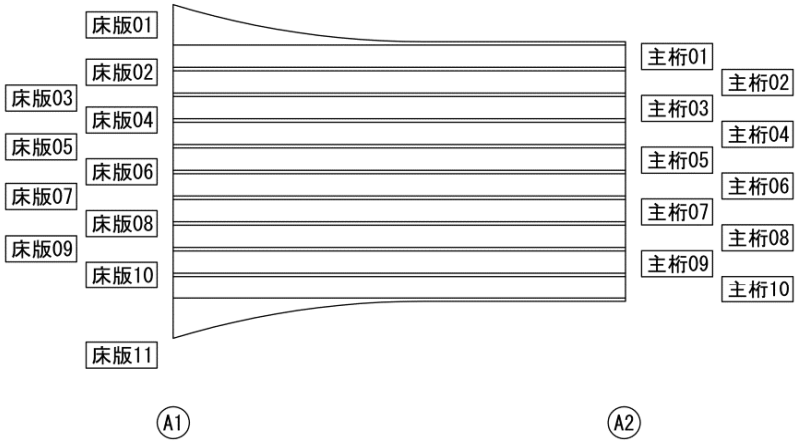
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

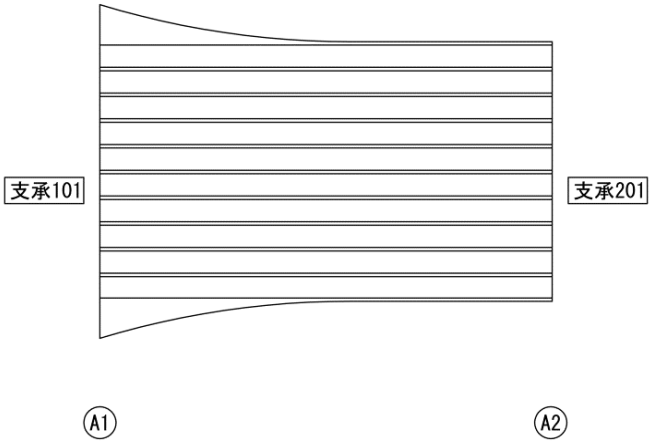
フリガナ 橋梁名	シモニッタハシ 下新田橋	路線名	下新田7号線	所在地	袖ケ浦市下新田8-1地先

部材番号図

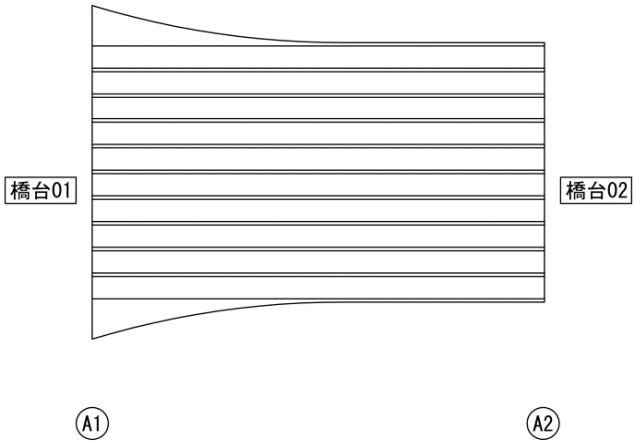
主桁・床版



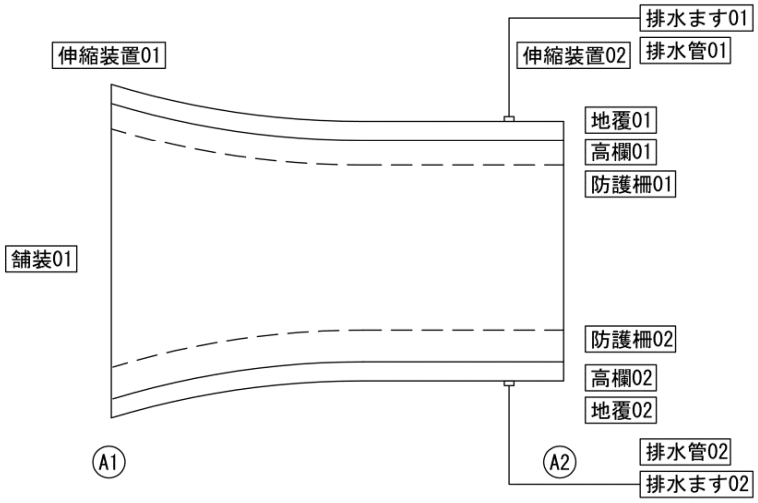
支承部



下部工



高欄・防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



8. 蔵波新堰橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　26′　04.88″	橋梁ID
				経度	140°　01′　38.96″	35.43469,140.02749
蔵波新堰橋 (フリガナ)クラナミシンセキバシ	蔵波36号線	袖ケ浦市蔵波3311-42地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.14	蔵波川	有	一般道	三次	水道、ガス

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	8m	4.60m
橋梁形式		
現場打ちボックスカルバート(2連)		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

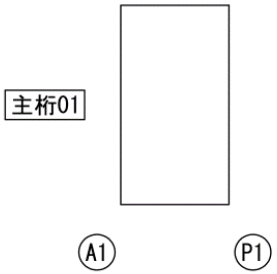
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-１　部材番号図	径間番号	1

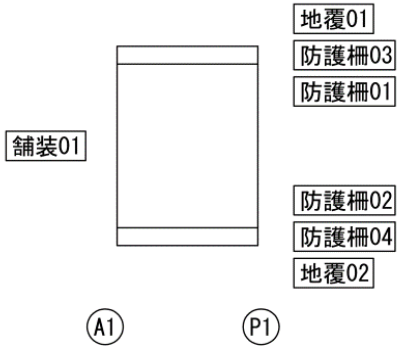
ﾌﾘｶﾞﾅ 橋梁名	クラナミシンセキバシ 蔵波新堰橋	路線名	蔵波36号線	所在地	袖ケ浦市蔵波3311-42地先

部材番号図

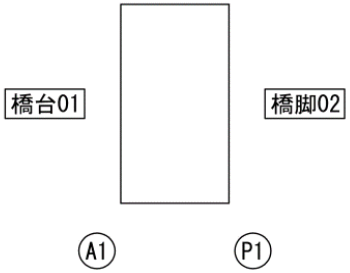
主桁



防護柵・地覆・舗装



下部工

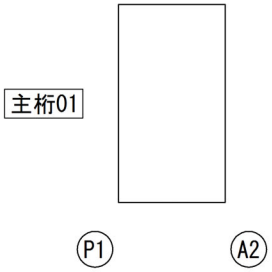


付図-1　部材番号図	径間番号	2

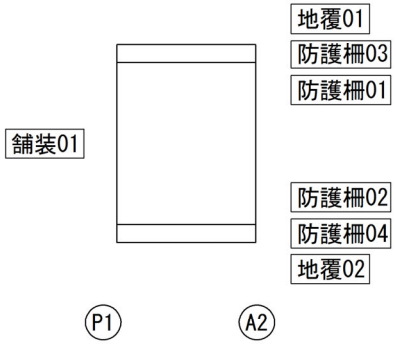
ﾌﾘｶﾞﾅ 橋梁名	クラナミシンセキバシ 蔵波新堰橋	路線名	蔵波36号線	所在地	袖ケ浦市蔵波3311-42地先

部材番号図

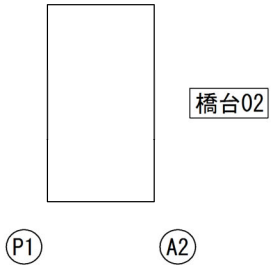
主桁



防護柵・地覆・舗装



下部工



9. 下新田３号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　36.47″	橋梁ID
				経度	139°　59′　47.33″	35.41013,139.99648
下新田3号橋 (フリガナ)シモニッタサンゴウキョウ	下新田6号線	袖ケ浦市下新田69-2地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.9	浮戸川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	土砂詰まり、その他	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2003年	14m	5.03m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景

起点側

終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

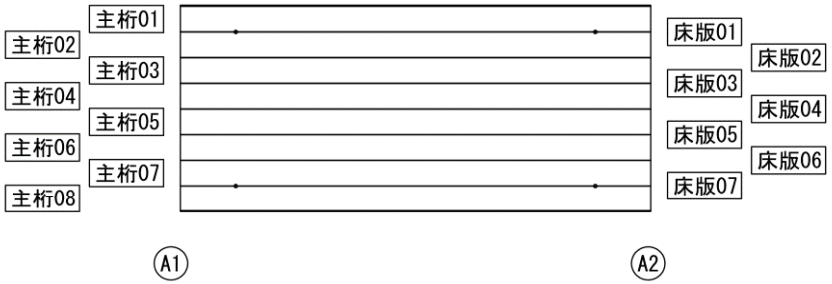
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-１　部材番号図	径間番号	1

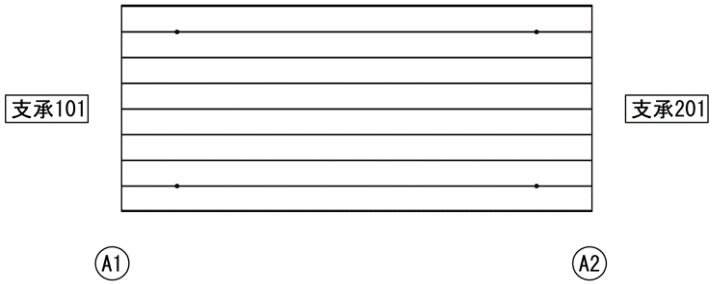
フリガナ 橋梁名	シモニッタサンゴウキョウ 下新田３号橋	路線名	下新田6号線	所在地	袖ケ浦市下新田69-2地先

部材番号図

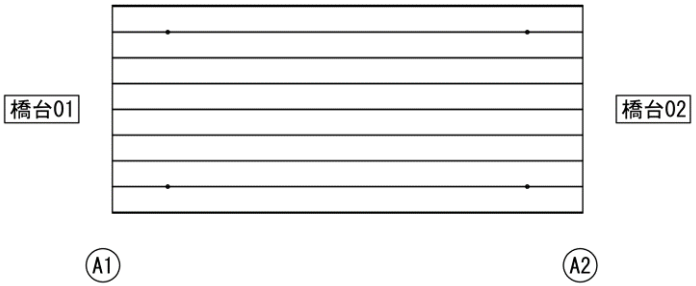
主桁・床版



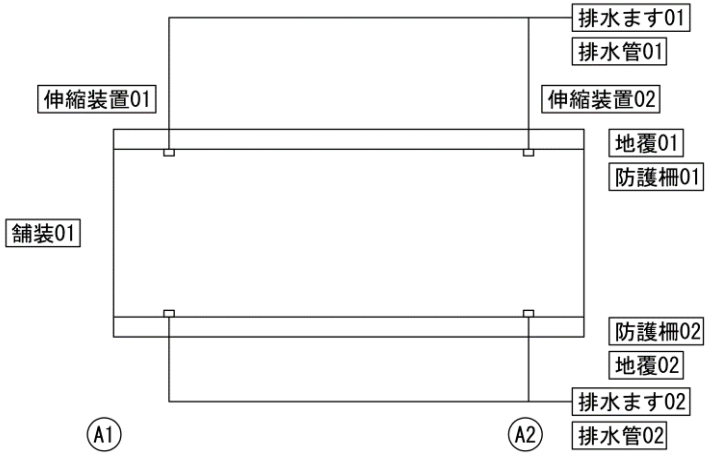
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



10. 下新田４号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　34.52″	橋梁ID
				経度	139°　59′　56.47″	35.40959,139.99902
下新田4号橋 (フリガナ)シモニッタヨンゴウキョウ	三ツ作5号線	袖ケ浦市三ツ作761地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.9	浮戸川	有	一般道	三次	不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1998年	14m	5.00m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

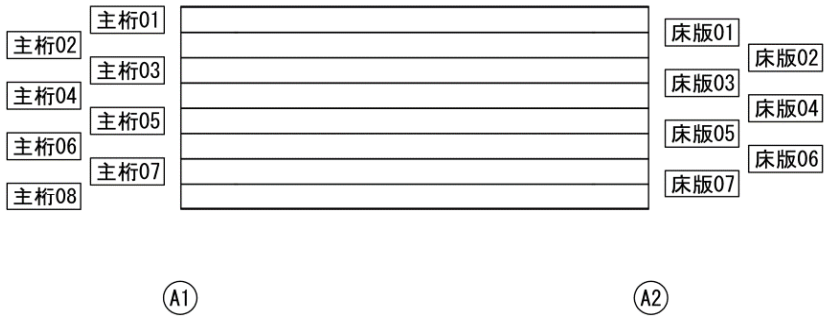
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-１　部材番号図	径間番号	1

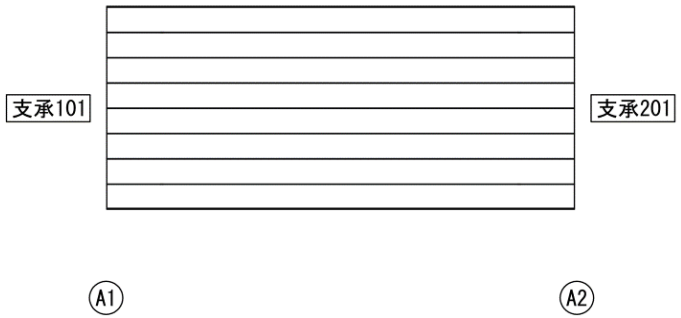
フリガナ 橋梁名	シモニッタヨンゴウキョウ 下新田４号橋	路線名	三ツ作5号線	所在地	袖ケ浦市三ツ作761地先

部材番号図

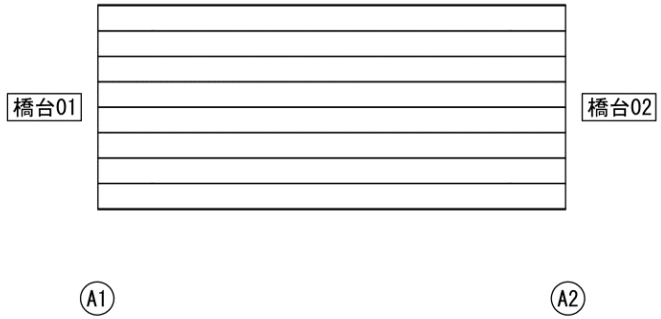
主桁・床版



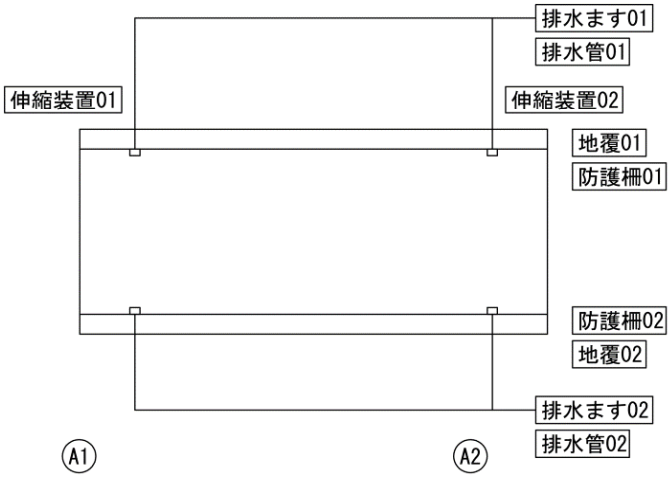
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



11. 三ツ作橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　32.62″	橋梁ID
				経度	140°　00′　05.58″	35.40906,140.00155
三ツ作橋 (フリガナ)ミツザクハシ	三ツ作6号線	袖ケ浦市三ツ作448地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.9	浮戸川	有	一般道	三次	不明(3条)

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1992年	14m	9.32m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

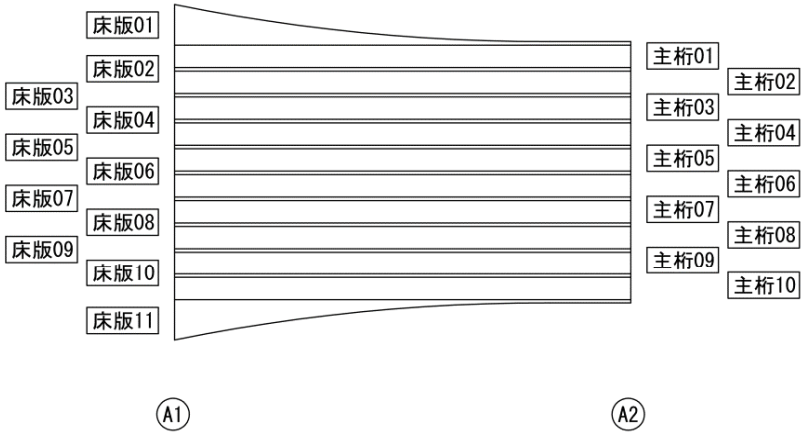
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

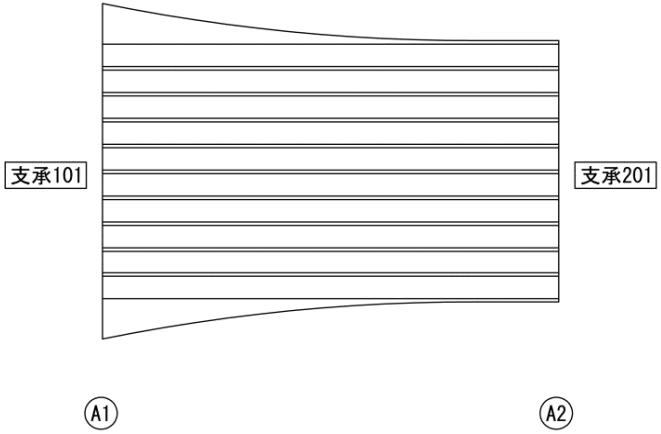
フリガナ 橋梁名	ミツザクハシ 三ツ作橋	路線名	三ツ作6号線	所在地	袖ケ浦市三ツ作448地先

部材番号図

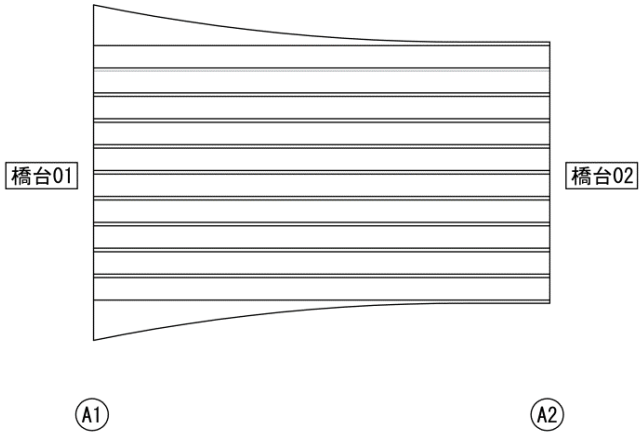
主桁・床版



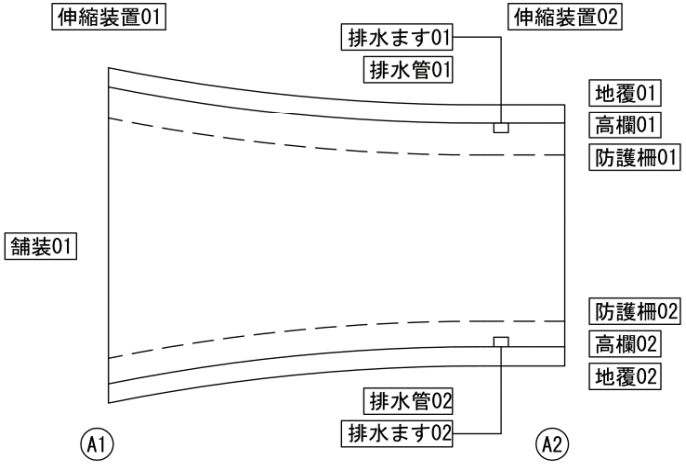
支承部



下部工



高欄・防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水管・排水ます



12. 三ツ作２号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　29.81″	橋梁ID
				経度	140°　00′　19.22″	35.40828,140.00534
三ツ作2号橋 (フリガナ)ミツザクニゴウハシ	三ツ作7号線	袖ケ浦市三ツ作5地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.9	浮戸川	有	一般道	三次	不明(2条)

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1999年	14m	5.00m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景

起点側

終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

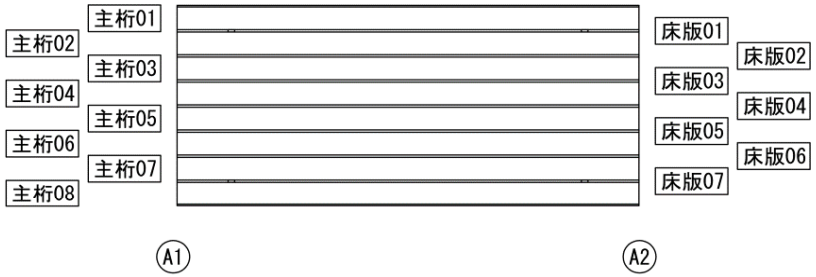
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-１　部材番号図	径間番号	1

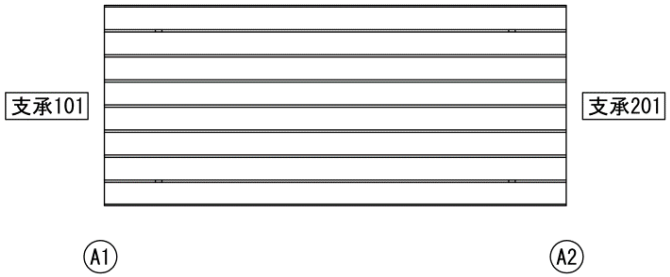
ﾌﾘｶﾞﾅ 橋梁名	ミツザクニゴウハシ 三ツ作２号橋	路線名	三ツ作7号線	所在地	袖ケ浦市三ツ作5地先

部材番号図

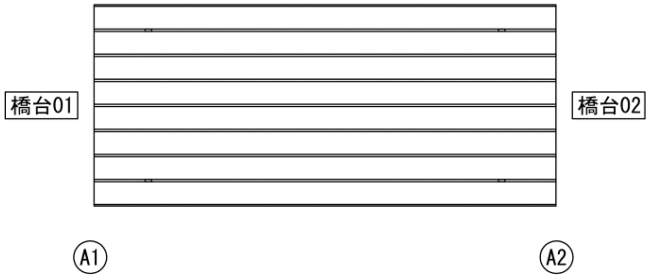
主桁・床版



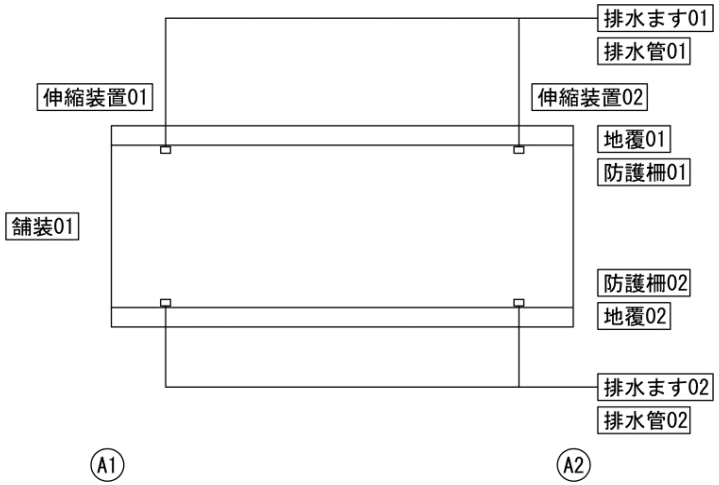
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



13. 勝２号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　24.01″	橋梁ID
				経度	140°　00′　46.51″	35.40667,140.01292
勝2号橋 (フリガナ)カツニゴウハシ	大曽根18号線	袖ケ浦市大曽根432地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.10	浮戸川	有	一般道	三次	不明(2条)

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)　　定期点検者　開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1997年	11m	5.00m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、重力式橋台2基		

全景

起点側

終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

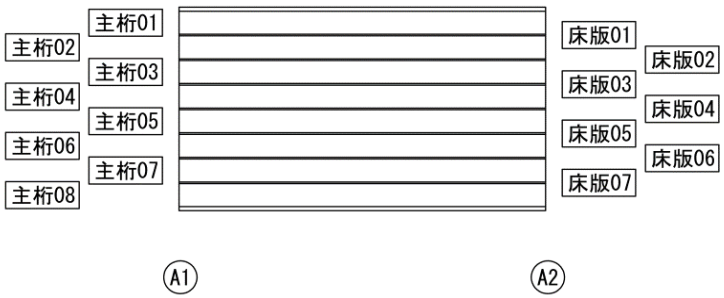
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-１　部材番号図	径間番号	1

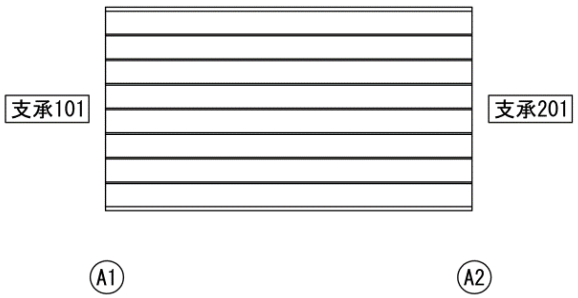
ﾌﾘｶﾞﾅ 橋梁名	カツニゴウハシ 勝２号橋	路線名	大曽根18号線	所在地	袖ケ浦市大曽根432地先

部材番号図

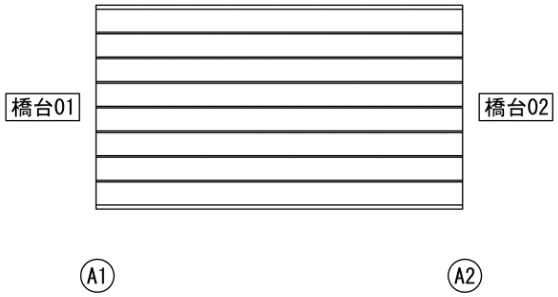
主桁・床版



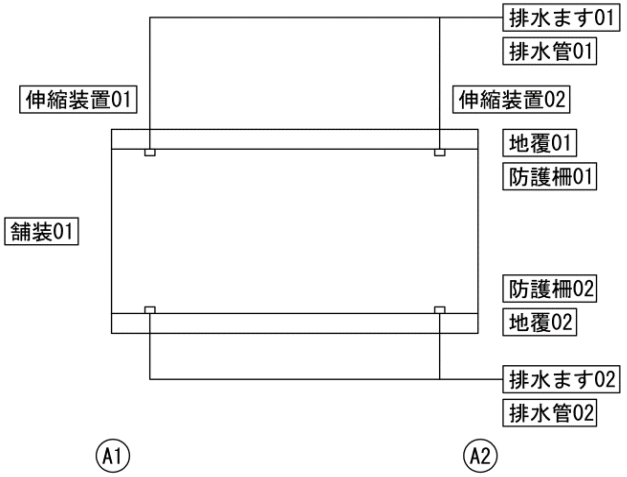
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



14. 勝橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　22.10″	橋梁ID
				経度	140°　00′　55.66″	35.40614,140.01546
勝橋 (フリガナ)カツバシ	代宿横田線	袖ケ浦市勝118-2地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.6	浮戸川	有	一般道	三次	下水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	腐食、欠損、土砂、その他	写真1 舗装　写真2 排水管			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まり、植生、排水管に腐食、欠損が見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1992年	11m	11.70m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋+RC単純床版橋(場所打ち)、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

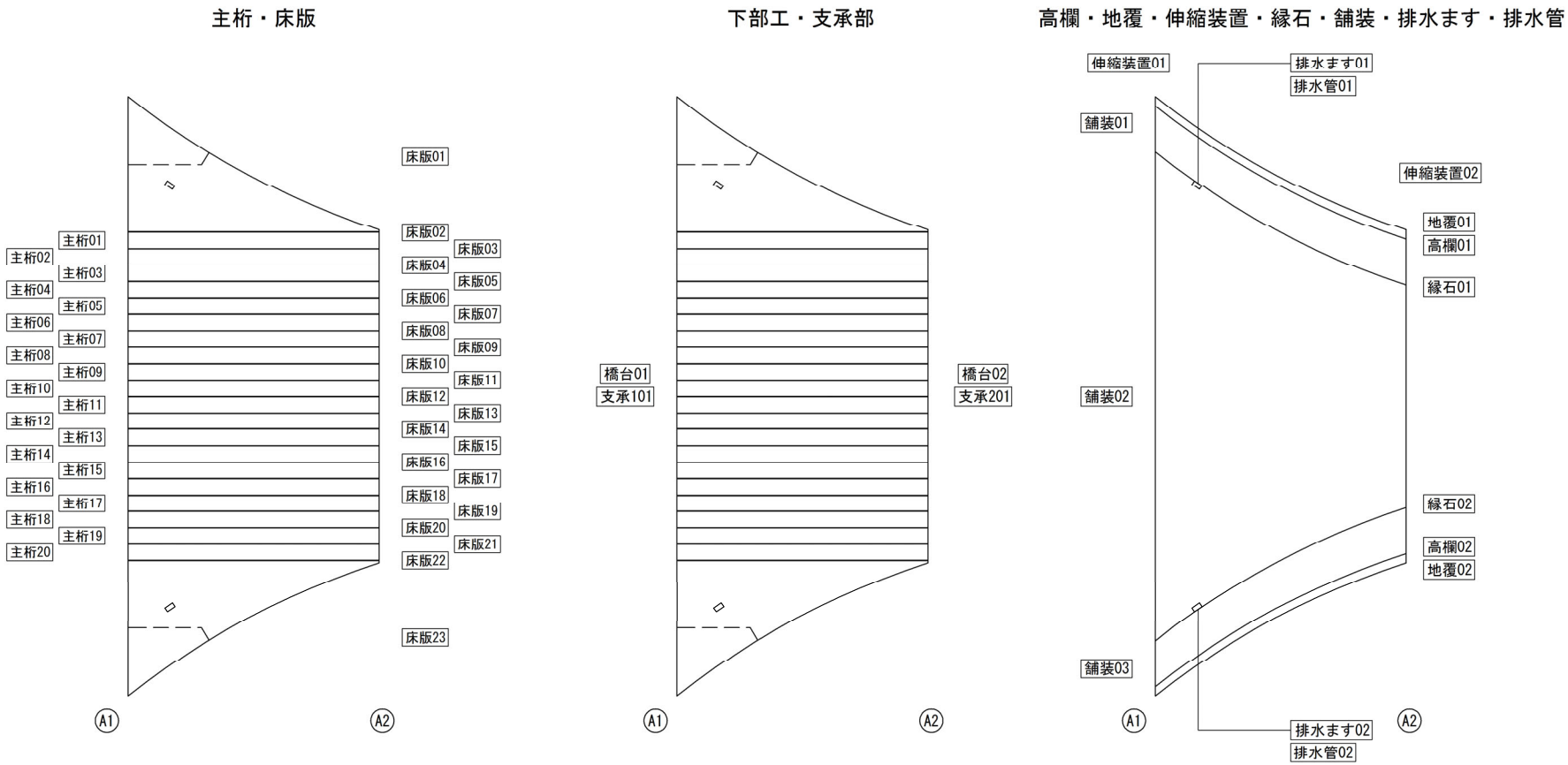
〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	その他(排水管)【判定区分:　Ⅱ　】
写真1 舗装　土砂詰まり、その他（植生）	写真2 排水管　腐食、変形・欠損
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

フリガナ 橋梁名	カツハシ 勝橋	路線名	代宿横田線	所在地	袖ケ浦市勝118-2地先

部材番号図



15. 上泉定度橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　27.76″	橋梁ID
				経度	140°　03′　02.81″	35.40771,140.05078
上泉定度橋 (フリガナ)カミイズミジョウドバシ	上泉16号線	袖ケ浦市上泉1345地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.13	松川	有	一般道	三次	不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1985年	11m	12.00m
橋梁形式		
PC単純プレテンT桁橋、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

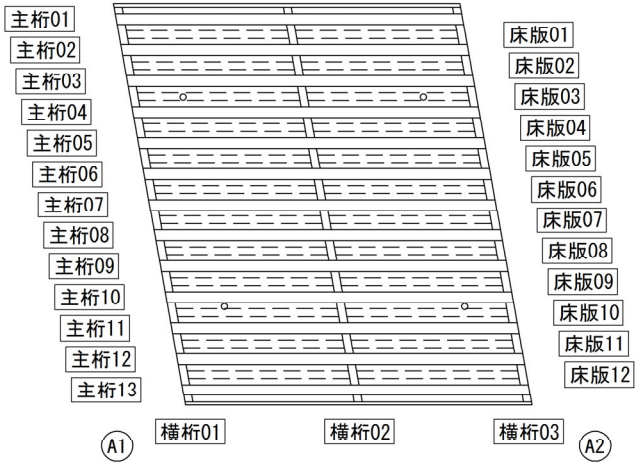
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

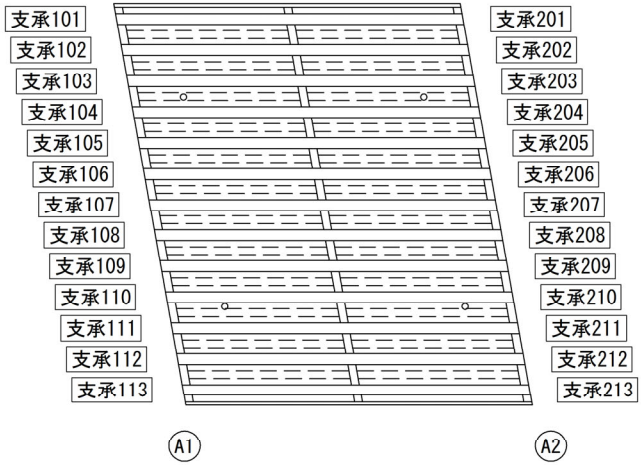
フリガナ 橋梁名	カミイズミサダドバシ 上泉定度橋	路線名	上泉16号線	所在地	袖ケ浦市上泉1345地先

部材番号図

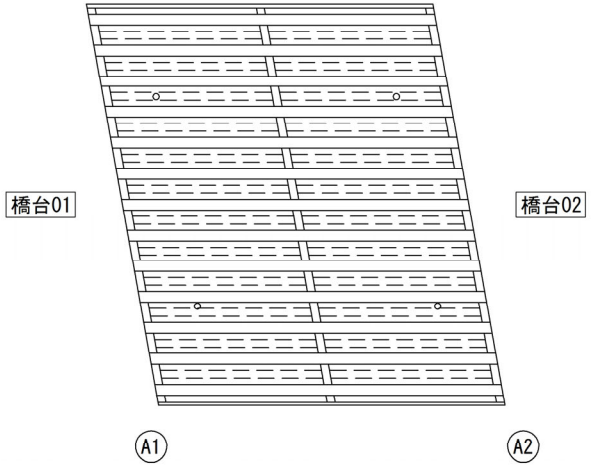
主桁・横桁・床版



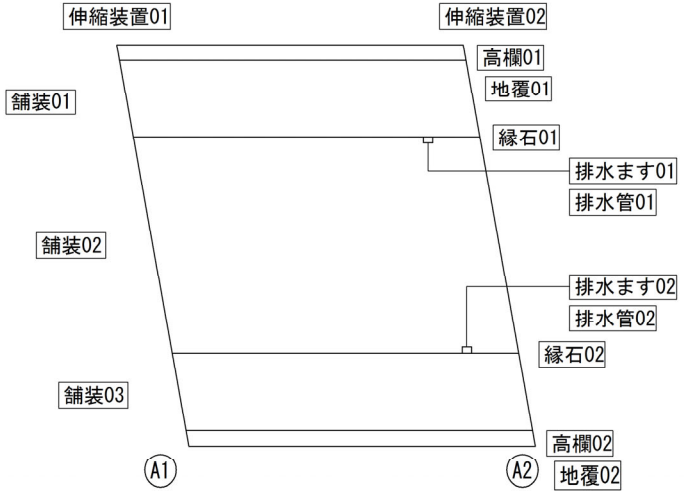
支承部



下部工



高欄・地覆・伸縮装置・縁石・舗装・排水ます・排水管



16. 新王橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　46.55″	橋梁ID
				経度	140°　03′　25.34″	35.41293,140.05704
新王橋 (フリガナ)シンノウバシ	永吉上泉線	袖ケ浦市永吉223地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.13	松川	有	一般道	三次	不明(2条)

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1993年	14m	7.00m
橋梁形式		
PC単純プレテンT桁橋、不明		

全景

起点側

終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

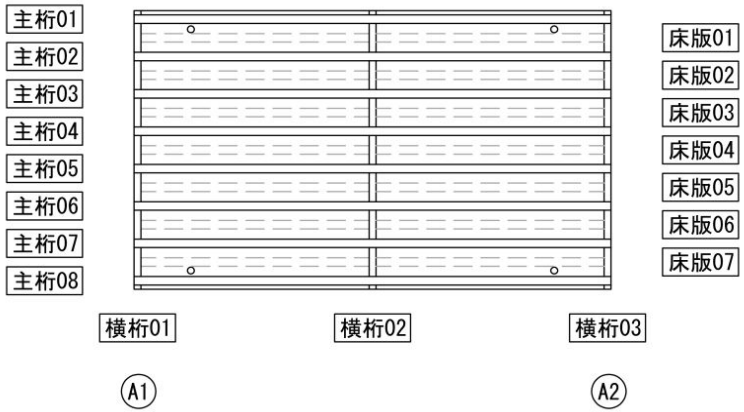
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

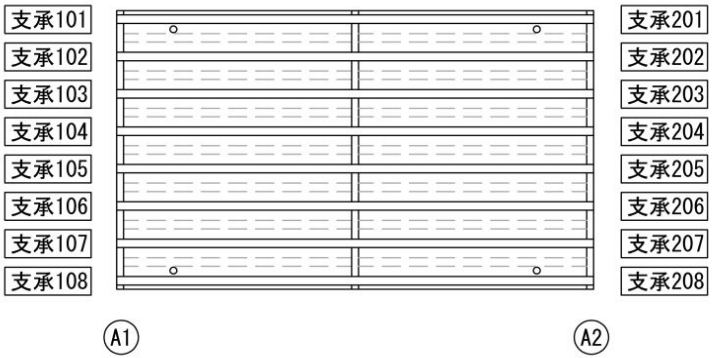
フリガナ 橋梁名	シンノウバシ 新王橋	路線名	永吉上泉線	所在地	袖ケ浦市永吉223地先

部材番号図

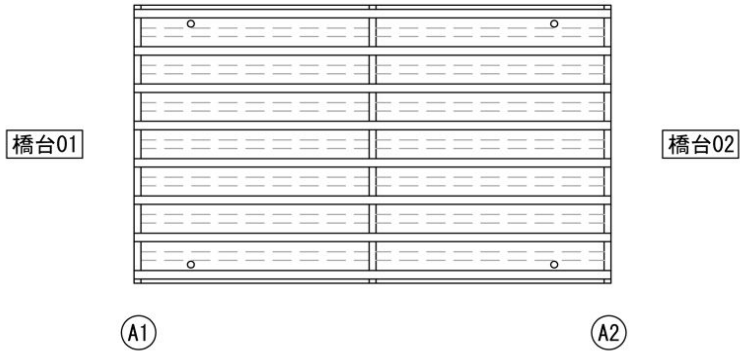
主桁・横桁・床版



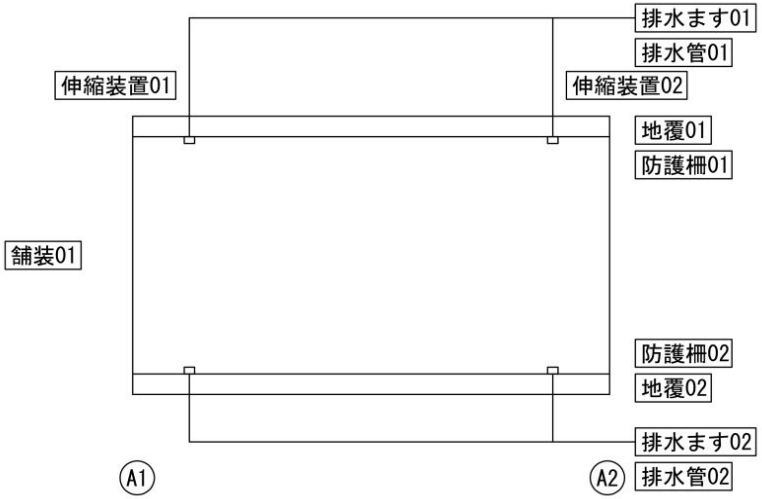
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



17. 川原井腰當１号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　46.19″	橋梁ID
				経度	140°　04′　15.49″	35.41283,140.07097
川原井腰當1号橋 (フリガナ)カワハライコシアテイチゴウバシ	川原井6号線	袖ケ浦市川原井496地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.13	松川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	13m	5.00m
橋梁形式		
現場打ちボックスカルバート		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

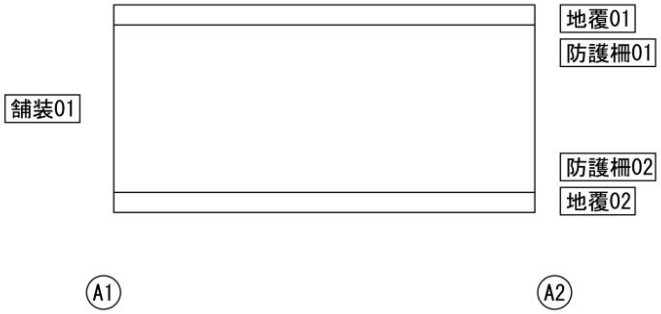
付図-１　部材番号図	径間番号	1

ﾌﾘｶﾞﾅ 橋梁名	カワハライコシアテイチゴウバシ 川原井腰當１号橋	路線名	川原井6号線	所在地	袖ケ浦市川原井496地先

部材番号図

主桁

防護柵・地覆・舗装



下部工

18. 吉野田橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　22′　23.59″	橋梁ID
				経度	140°　00′　46.04″	35.37322,140.01279
吉野田橋 (フリガナ)ヨシノダバシ	吉野田1号線	袖ケ浦市吉野田545地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.14	槍水川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅲ	腐食、変形・欠損、土砂詰まり	写真1 防護柵、写真2 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	防護柵に腐食、欠損、舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1970年	15m	5.00m

橋梁形式
PC単純プレテン床版橋、パイルベント橋台2基

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2　様式1様式2　　様式2

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

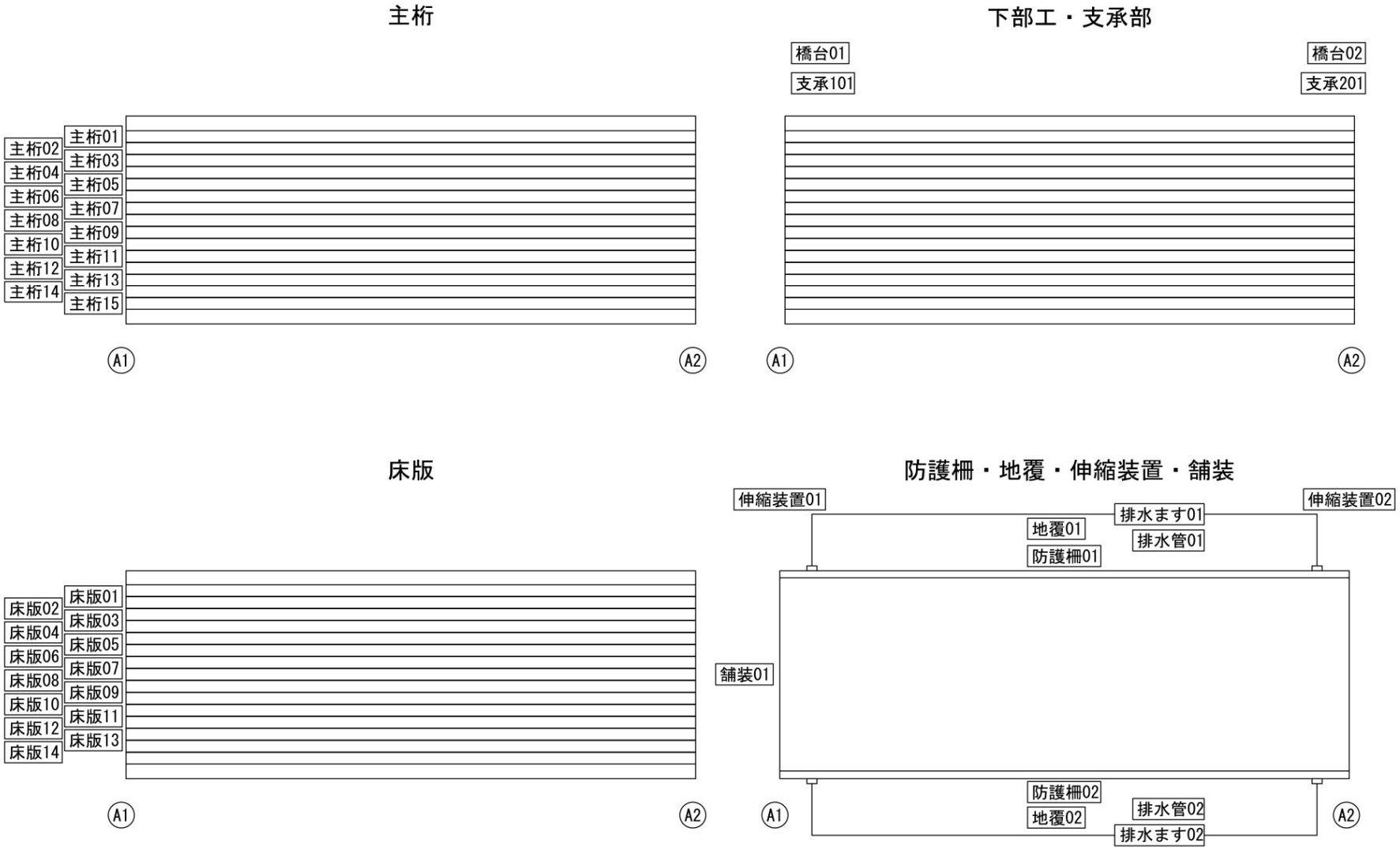
〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他(防護柵)【判定区分:　Ⅲ　】	その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】
写真1 防護柵　腐食、変形・欠損	写真2 舗装　土砂詰まり
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

フリガナ 橋梁名	ヨシノダバシ 吉野田橋	路線名	吉野田1号線	所在地	袖ケ浦市吉野田545地先

部材番号図



19. 山王橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　22′　16.82″	橋梁ID
				経度	140°　00′　42.62″	35.37134,140.01184
山王橋 (フリガナ)サンノウバシ	吉野田2号線	袖ケ浦市吉野田432地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.14	槍水川	有	一般道	三次	上水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)　　定期点検者　開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1974年	13m	4.23m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

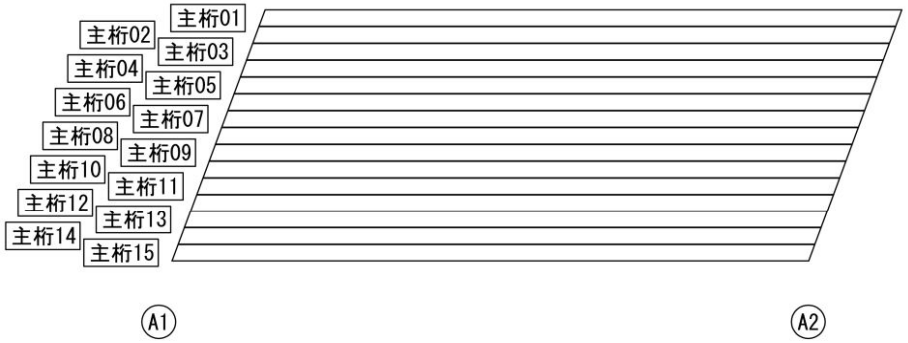
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

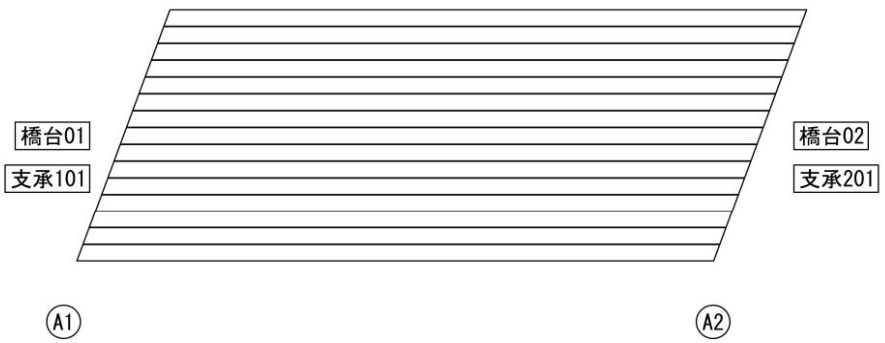
フリガナ 橋梁名	サンノウバシ 山王橋	路線名	吉野田2号線	所在地	袖ケ浦市吉野田432地先

部材番号図

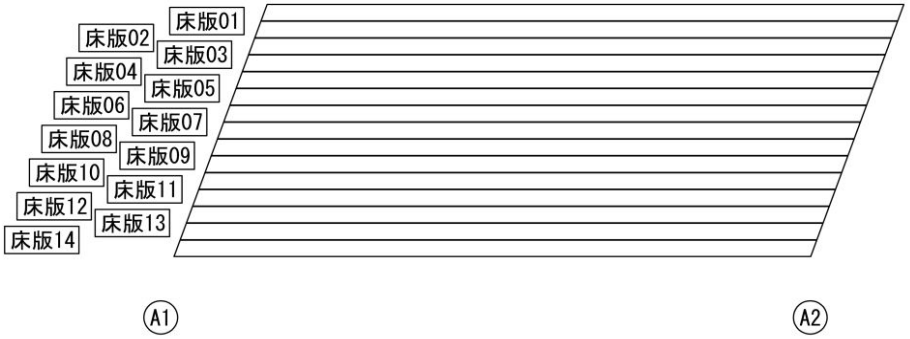
主桁



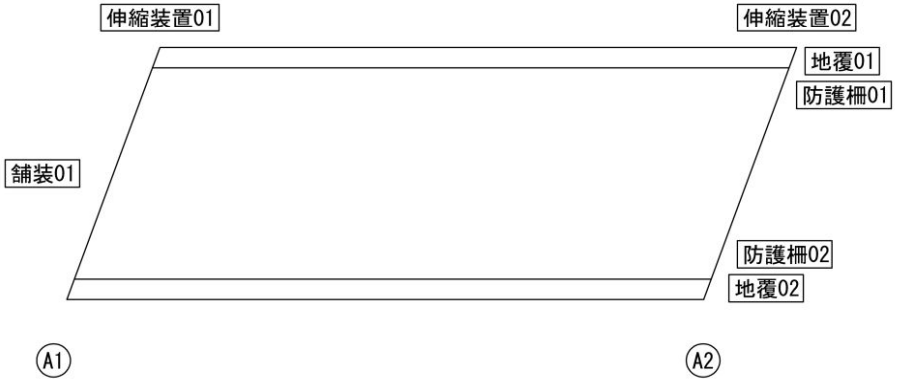
下部工・支承部



床版



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装



20. 久保田白根橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　27′　07.13″	橋梁ID
				経度	140°　00′　25.24″	35.45198,140.00701
久保田白根橋 (フリガナ)クボタシラネバシ	久保田二丁目2号線	袖ケ浦市久保田2344地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.14	久保田川	有	一般道	三次	上水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落	写真1 防護柵			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	防護柵にボルトの脱落が見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	6m	2.78m
橋梁形式		
RC単純床版橋(場所打ち)、重力式橋台2基		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

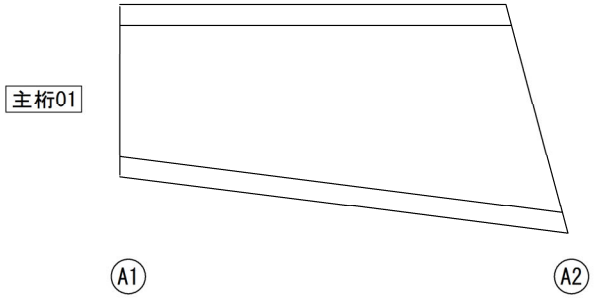
その他(防護柵)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 防護柵　ゆるみ・脱落	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

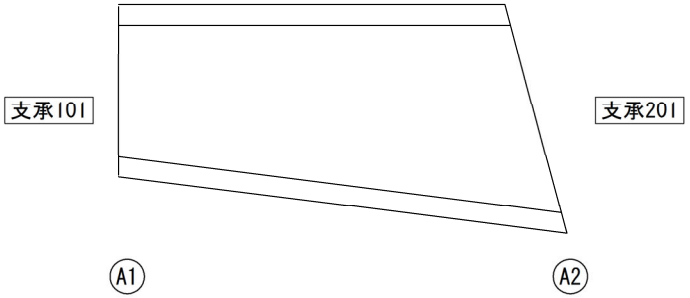
フリガナ 橋梁名	クボタシラネバシ 久保田白根橋	路線名	久保田二丁目2号線	所在地	袖ケ浦市久保田2344地先

部材番号図

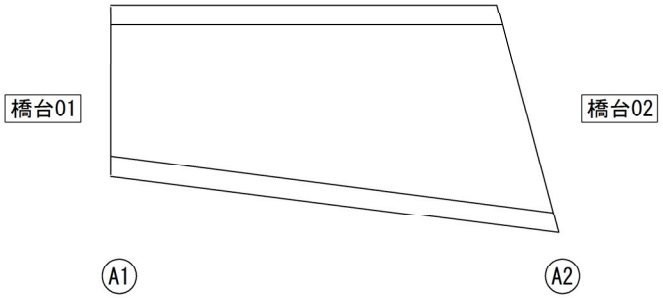
主桁



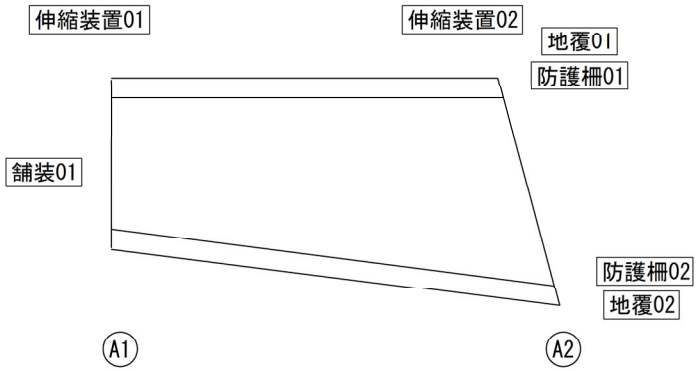
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装



21. 無名橋(134)

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　23′　10.32″	橋梁ID
				経度	140°　02′　38.15″	35.38620,140.04393
無名橋(134) (フリガナ)ムメイキョウ(ヒャクサンジュウヨン)	三箇15号線	袖ケ浦市三箇1044-2地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.13	境川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)　　定期点検者　開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	4m	8.00m
橋梁形式		
RC単純床版橋、逆T式橋台2基		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

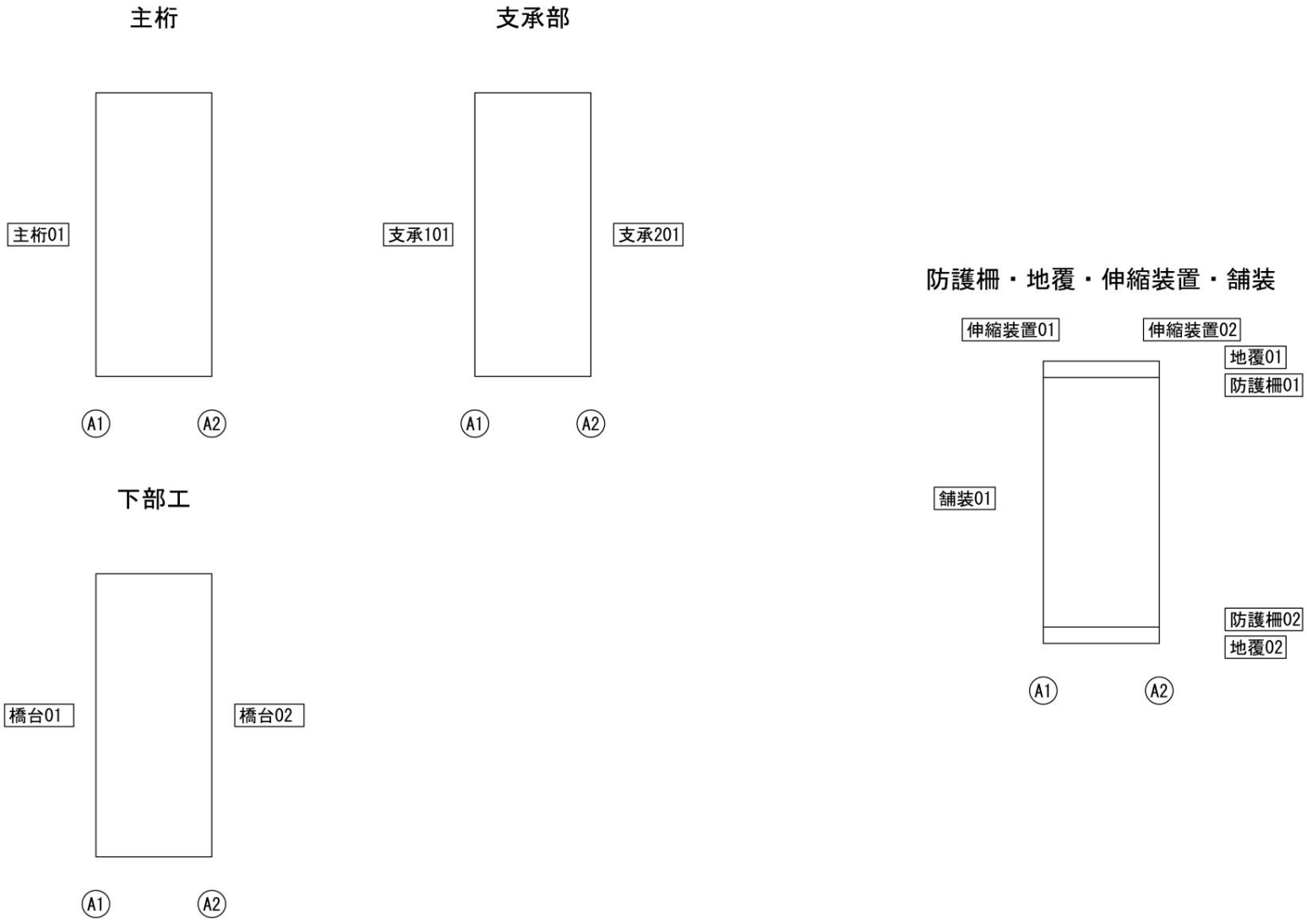
〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

フリガナ 橋梁名	ムメイキョウ(ヒャクサンジュウヨン) 無名橋(134)	路線名	三箇15号線	所在地	袖ケ浦市三箇1044-2地先

部材番号図



22. 岩井２号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　20.20″	橋梁ID
				経度	140°　01′　04.84″	35.40561,140.01801
岩井2号橋 (フリガナ)イワイニゴウバシ	岩井5号線	袖ケ浦市岩井343-1地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.10	浮戸川	有	一般道	三次	不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1998年	11m	5.00m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

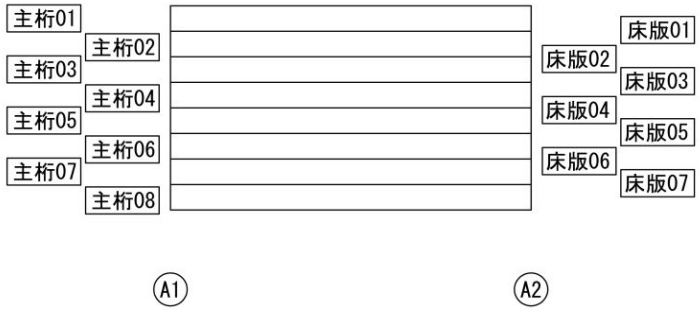
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-１　部材番号図	径間番号	1

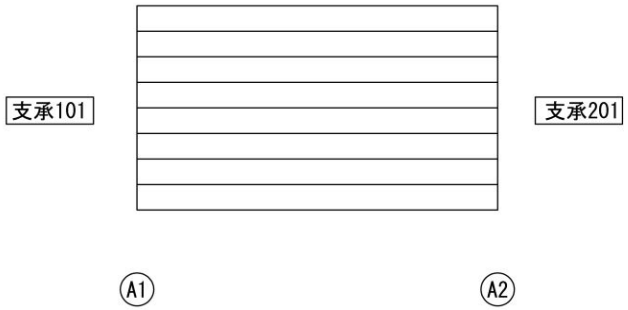
フリガナ 橋梁名	イワイニゴウバシ 岩井２号橋	路線名	岩井5号線	所在地	袖ケ浦市岩井343-1地先

部材番号図

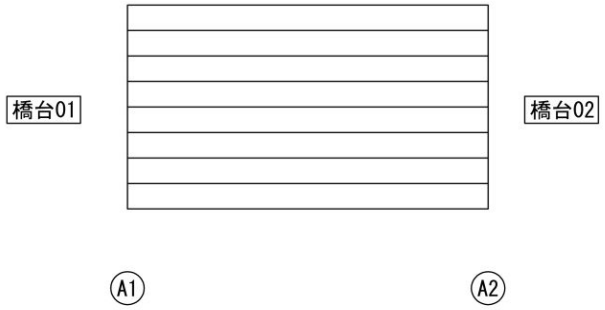
主桁・床版



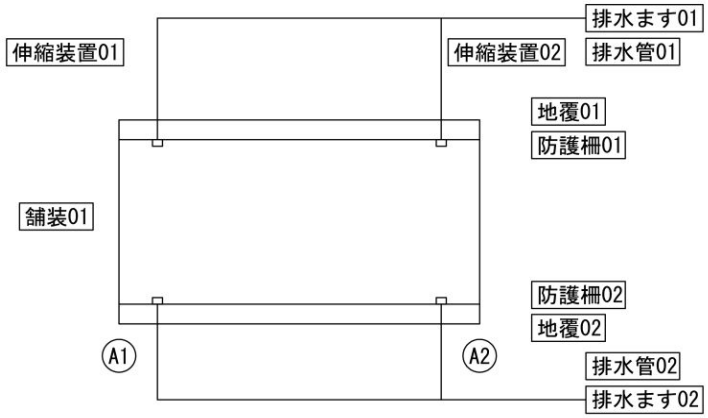
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置
舗装・排水ます・排水管



23. 林大橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　23′　55″	橋梁ID
				経度	140°　04′　43″	35.39861,140.07861
林大橋 (フリガナ)ハヤシオオハシ	川原井林線	袖ケ浦市林152地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.14	松川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2011年	17m	10.63m
橋梁形式		
PC単純プレテン床板橋、逆T式橋台2基		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

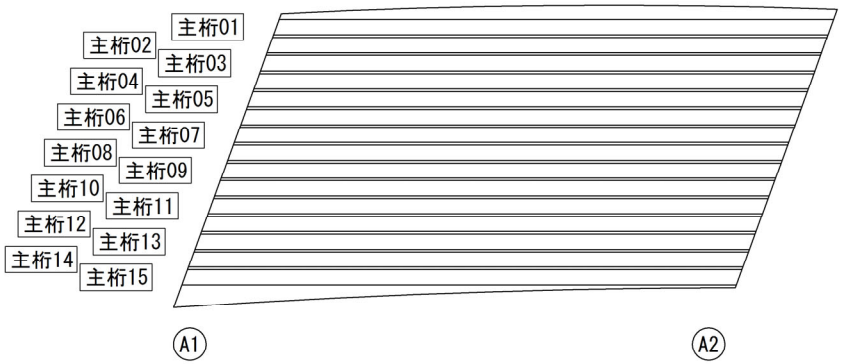
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

フリガナ 橋梁名	ハヤシオオハシ 林大橋	路線名	川原井林線	所在地	袖ケ浦市林152地先

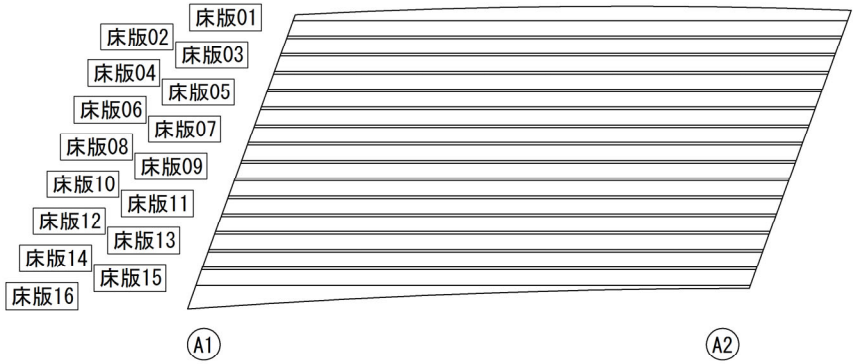
部材番号図

主桁

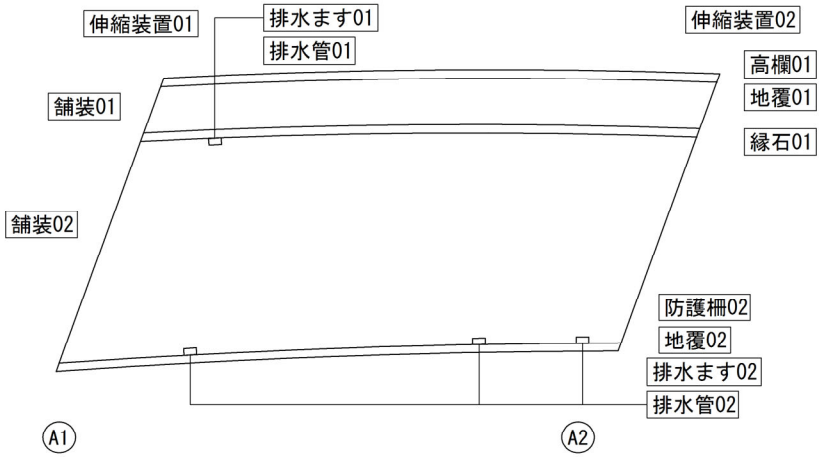


下部工・支承部

床版



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装・排水ます・排水管



24. ボックスカルバート⑦

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　45.72″	橋梁ID
				経度	140°　00′　35.93″	35.41270,140.00998
ボックスカルバート⑦ (フリガナ)ボックスカルバートナナ	飯富29号線	袖ケ浦市大曽根391地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.11.10	水路	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅱ	路面の凹凸、その他	写真1 防護柵、写真2-3 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	防護柵に植生、舗装に路面の凹凸が見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	4m	6.46m
橋梁形式		
RC単純床版橋(場所打ち)、不明		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2　様式1様式2　　様式2

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

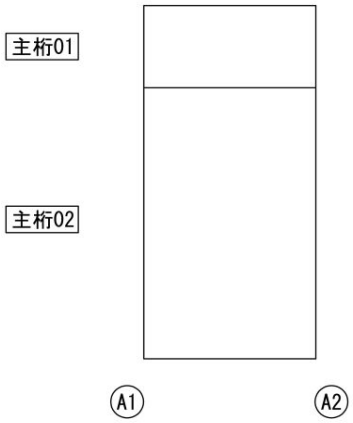
その他(防護柵)【判定区分:　Ⅱ　】	その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】
写真1 防護柵　その他（植生）	写真2 舗装　路面の凹凸（段差30㎜）
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真3 写真2の近接	

付図-1　部材番号図	径間番号	1

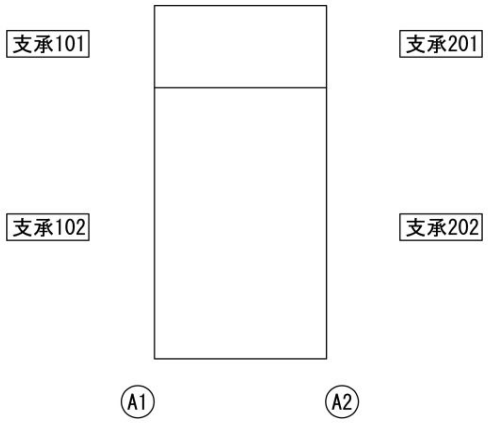
フリガナ 橋梁名	ボックスカルバートナナ ボックスカルバート⑦	路線名	飯富29号線	所在地	袖ケ浦市大曽根391地先

部材番号図

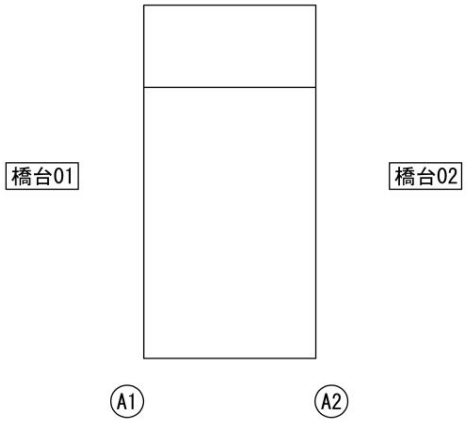
主桁



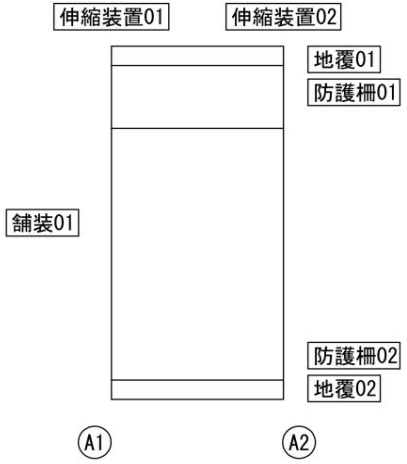
支承部



下部工



防護柵・地覆・伸縮装置・舗装



25. 袖ケ浦駅自由通路

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　25′　56.14″	橋梁ID
				経度	139°　57′　28.62″	35.43226,139.95795
袖ケ浦駅自由通路 (フリガナ)ソデガウラエキジユウツウロ	袖ケ浦駅南北自由通路	袖ケ浦市奈良輪1丁目100地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.12.4	JR内房線	無	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	その他	写真1 主桁01			
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅱ	その他	写真2 橋脚08			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	その他	写真3 縦桁01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

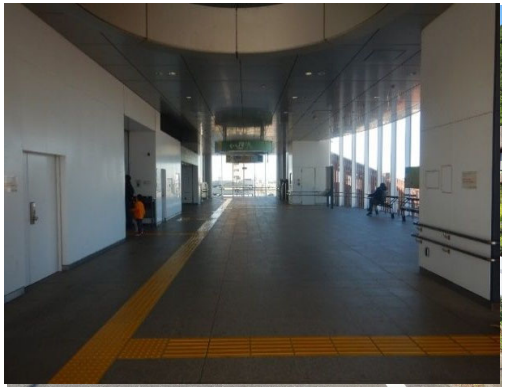
(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	主桁、縦桁に鳥のふん害、橋脚に落書きが見られる。維持工事で対応することが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2014年	89m	8.20m
橋梁形式		
鋼製ペデストリアンデッキ+鋼製階段、不明		

全景

起点側　　終点側



正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

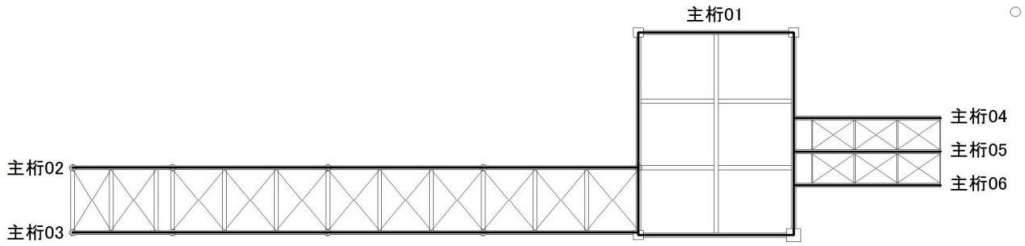
〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

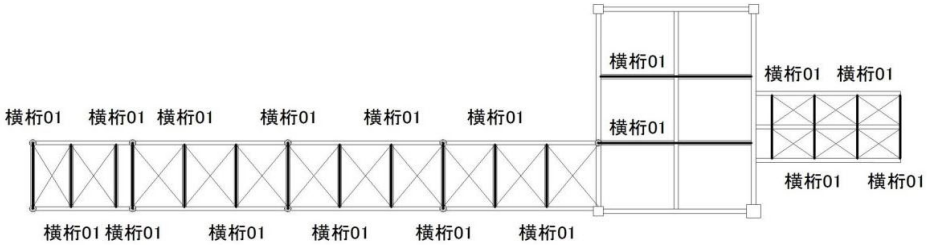
上部構造(主桁)【判定区分：　Ⅱ　】	下部構造(橋脚)【判定区分：　Ⅱ　】
写真1 ※JR点検調書より抜粋 主桁01　その他（鳥のふん害）（1径間）	写真2 橋脚08　鳥のふん害（ブロックB）
その他(縦桁)【判定区分：　Ⅱ　】	【判定区分：　　】
写真3 ※JR点検調書より抜粋 縦桁01　その他（鳥のふん害）（1径間）	

部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

主桁

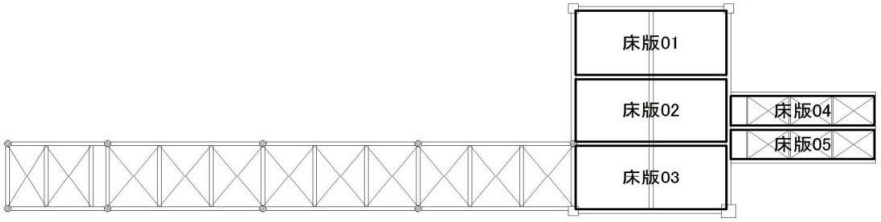


横桁

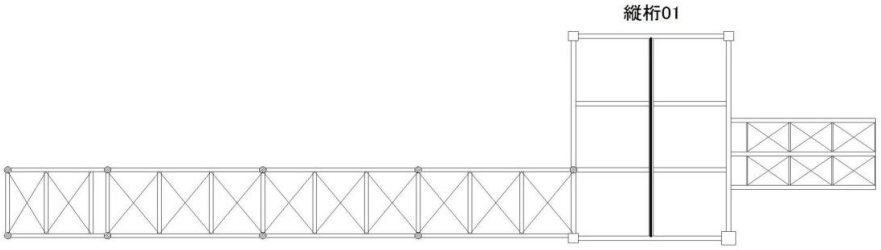


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

床版

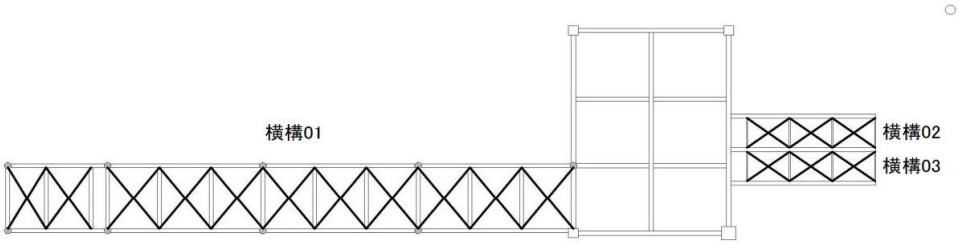


縦桁

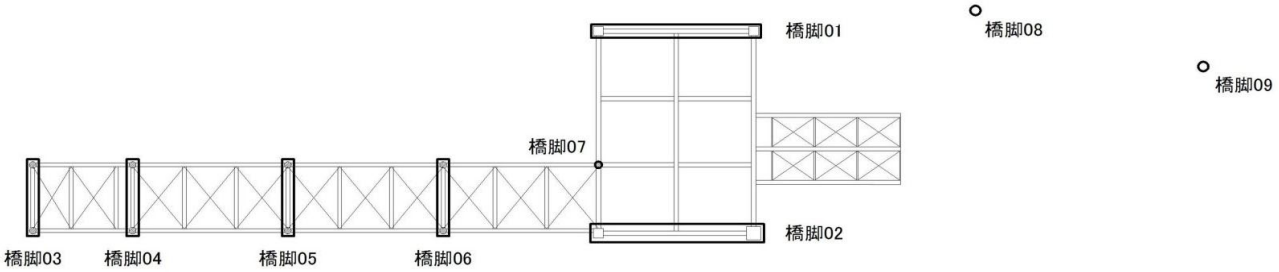


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

横構

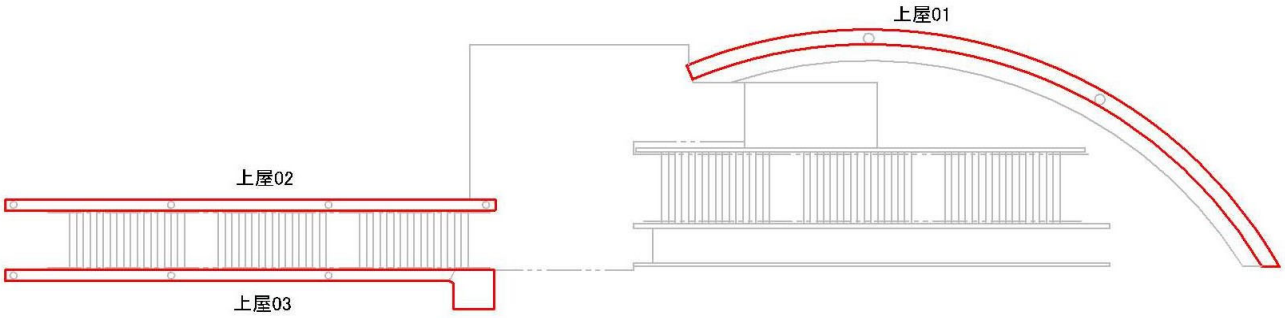


橋脚

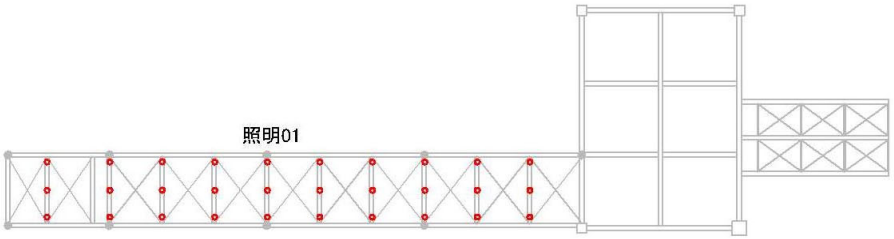


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

上屋

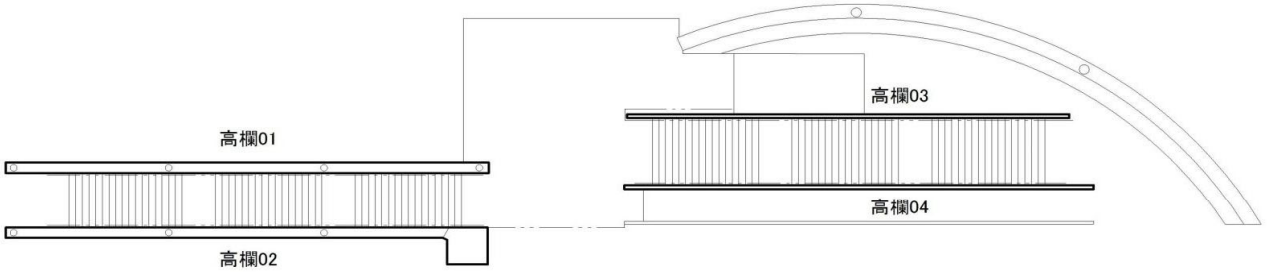


照明

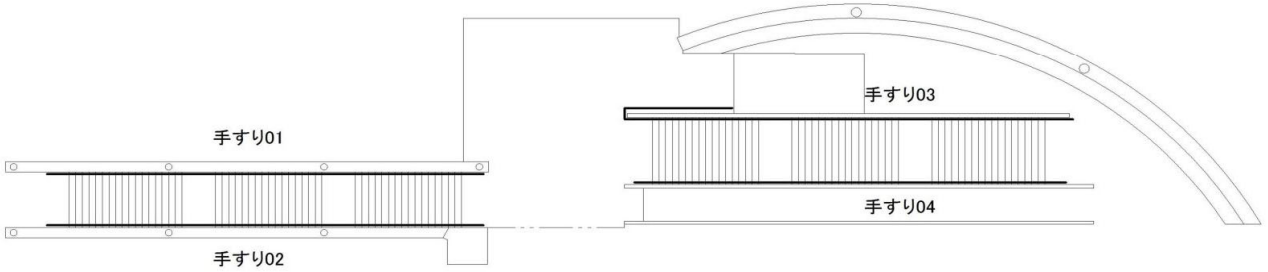


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

高欄

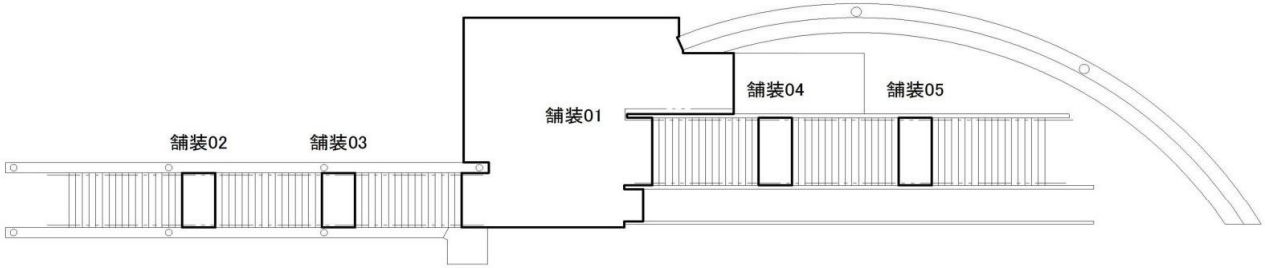


手すり

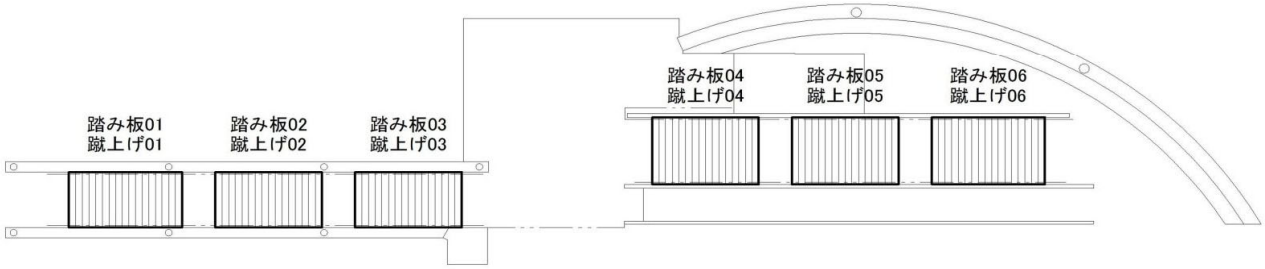


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

舗装

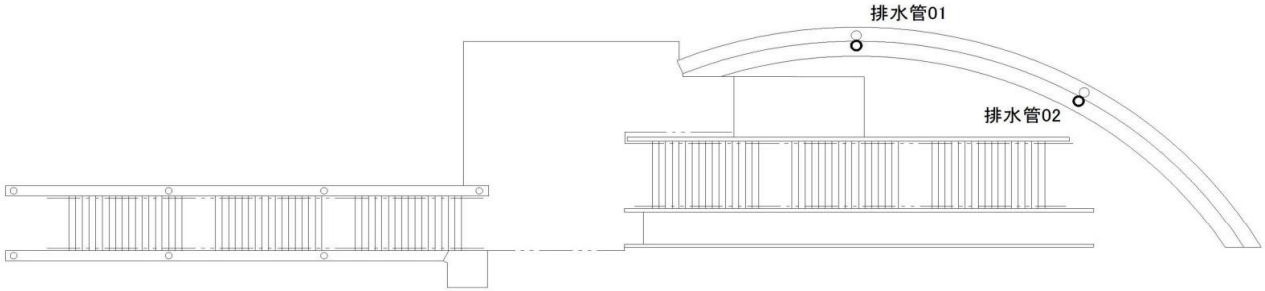


踏み板,蹴上げ

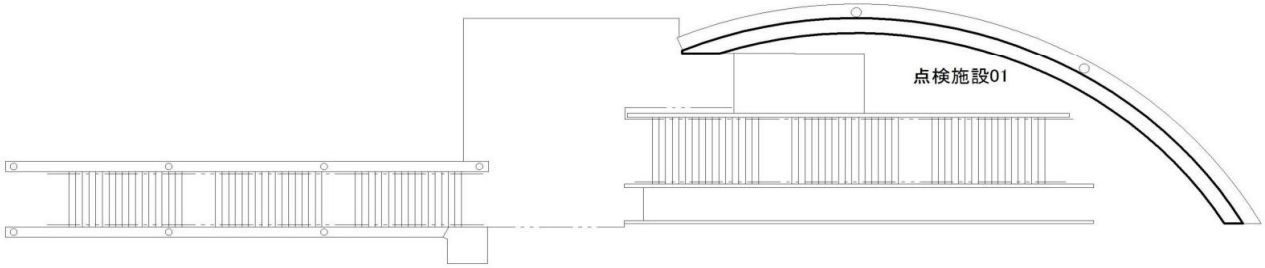


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

排水管

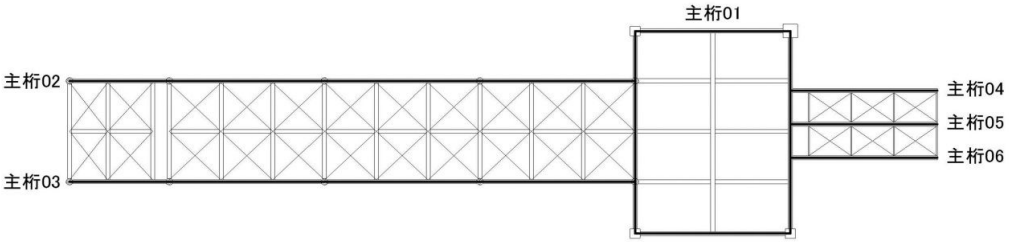


点検施設

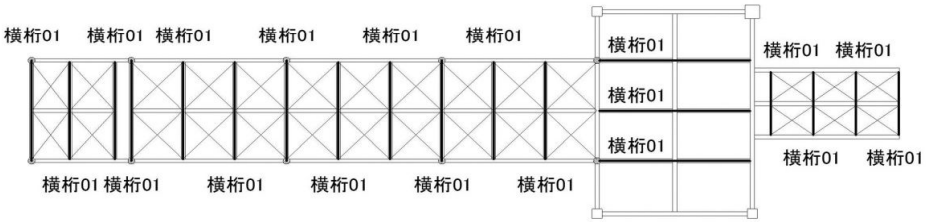


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸB	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

主桁

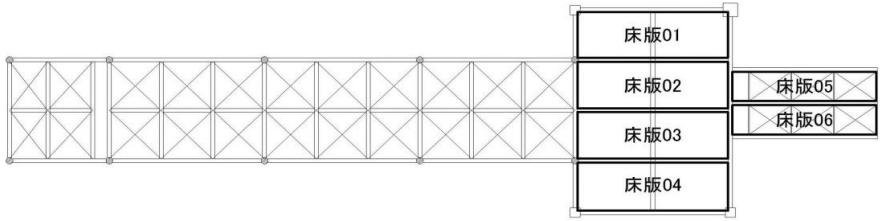


横桁

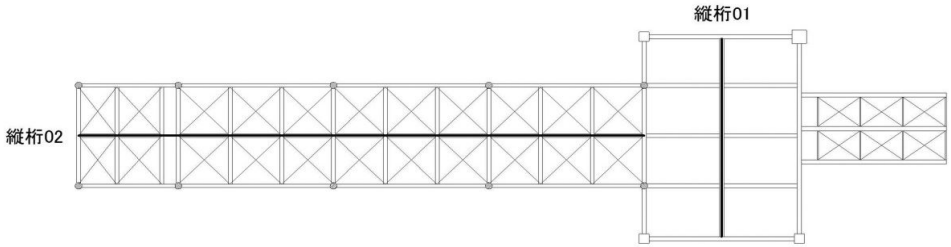


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸB	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

床版

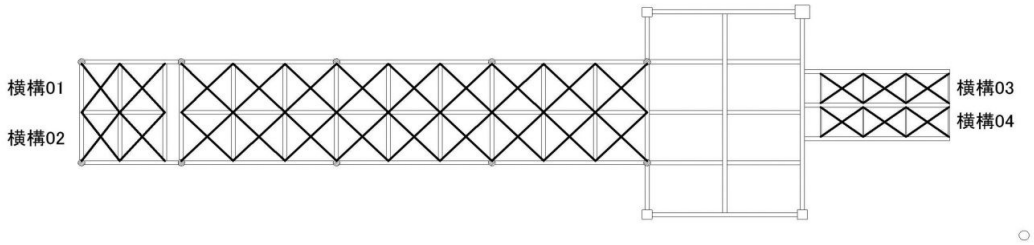


縦桁

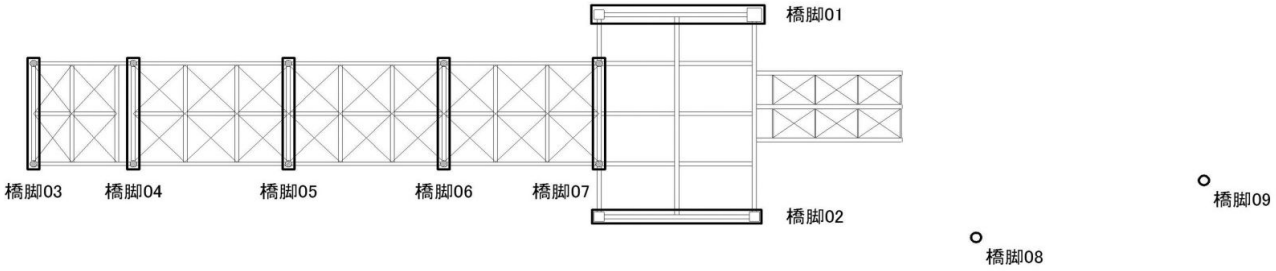


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸB	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

横構

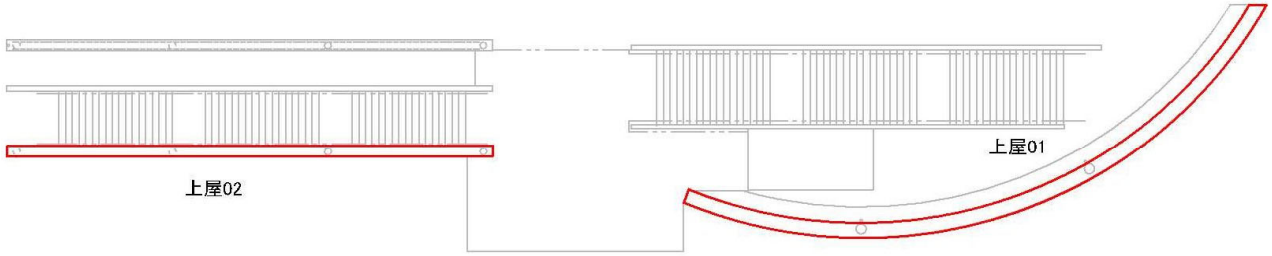


橋脚

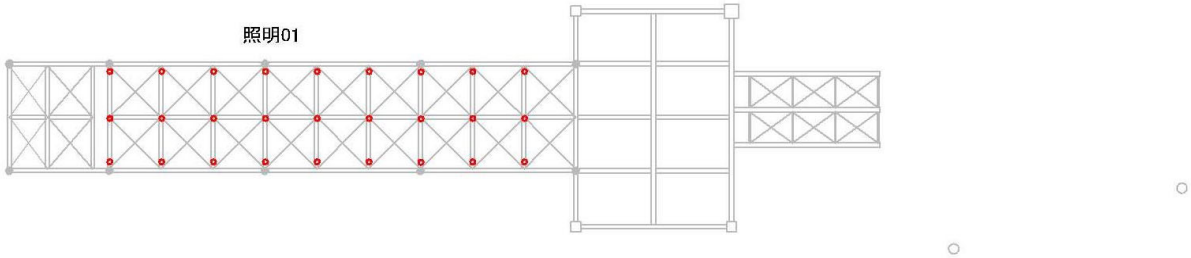


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸB	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

上屋

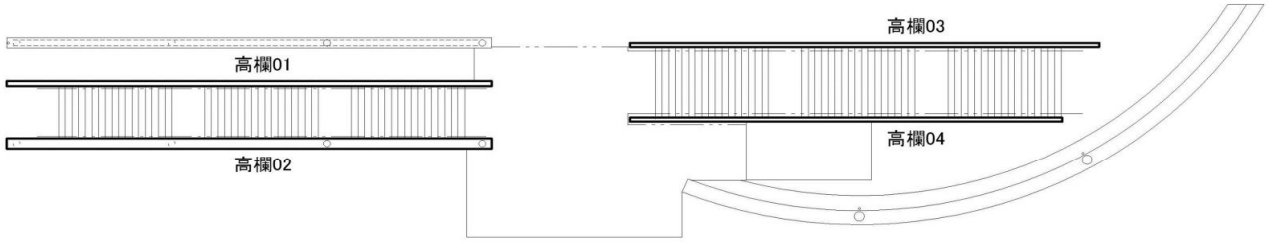


照明

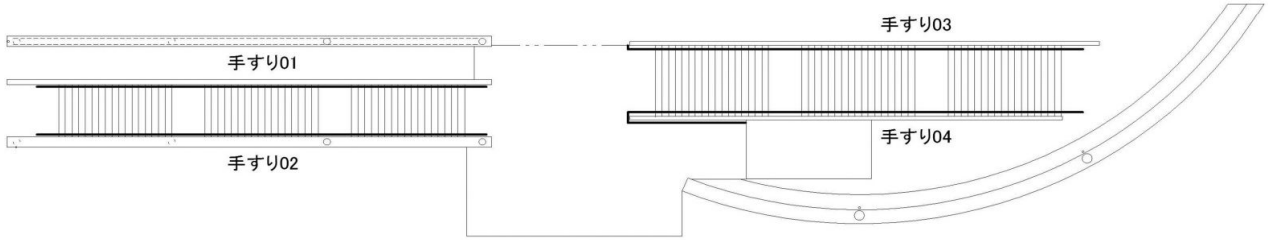


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸB	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

高欄

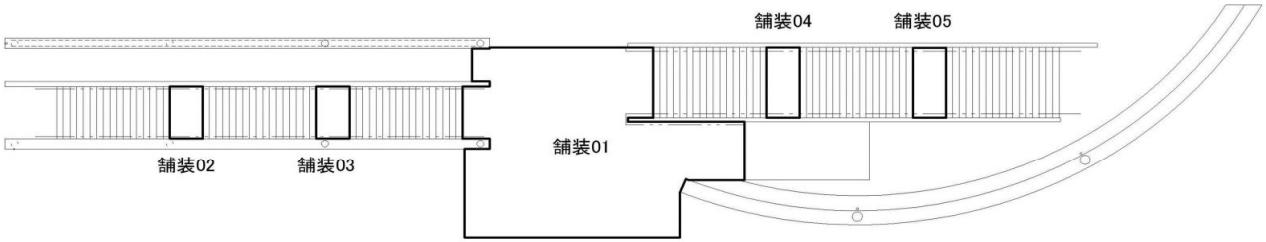


手すり

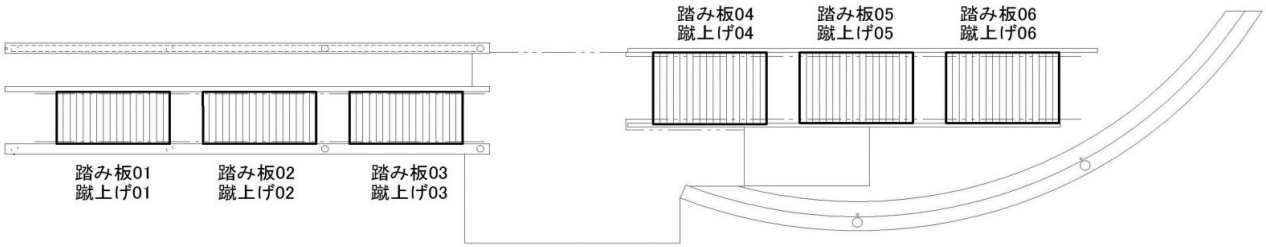


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸB	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

舗装

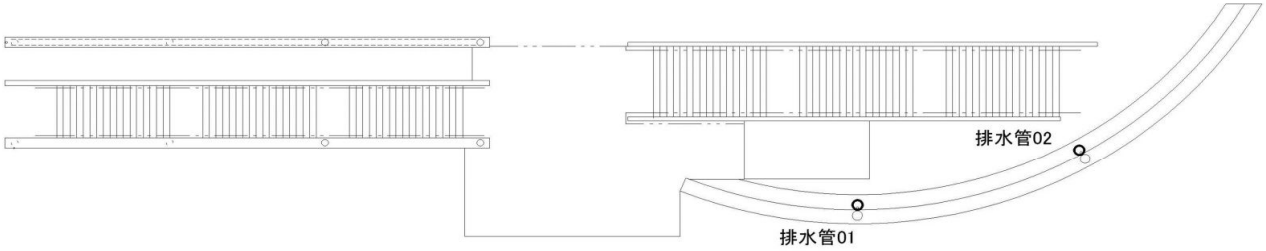


踏み板,蹴上げ

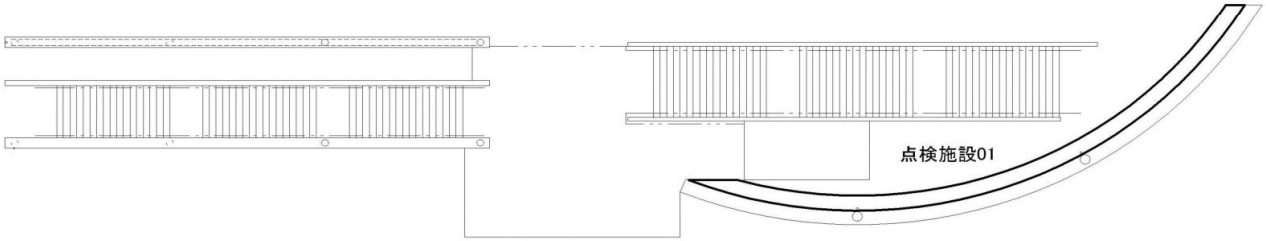


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸB	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

排水管

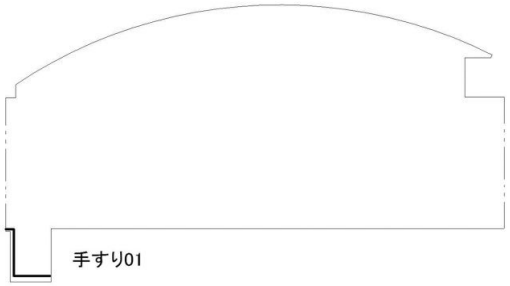


点検施設

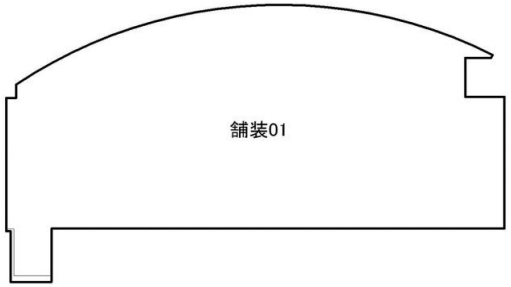


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸC	ﾌﾘｶﾞﾅ	ｿﾃﾞｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	袖ケ浦駅南北自由通路
			橋梁名	袖ケ浦駅自由通路		

手すり



舗装



26. 長浦駅自由通路

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　27′　01.62″	橋梁ID
				経度	139°　59′　44.02″	35.45045,139.99556
長浦駅自由通路 (フリガナ)ナガウラエキジユウツウロ	長浦駅南北自由通路	袖ケ浦市長浦駅前1丁目34地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.12.7	JR内房線	無	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	その他	写真1　主桁01			
	横桁	Ⅱ	その他	写真2　横桁02			
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落、その他	写真3～6　高欄、手すり、舗装、点検施設			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	主桁、舗装、点検施設に鳥のふん害、横桁に鳥の巣、高欄の化粧パネルおよび手すりにネジの脱落が見られる。維持工事で対応することが望ましい。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2014年	56m	7.50m
橋梁形式		
鋼製ペデストリアンデッキ+鋼製階段、不明		

全景

起点側

終点側

正面

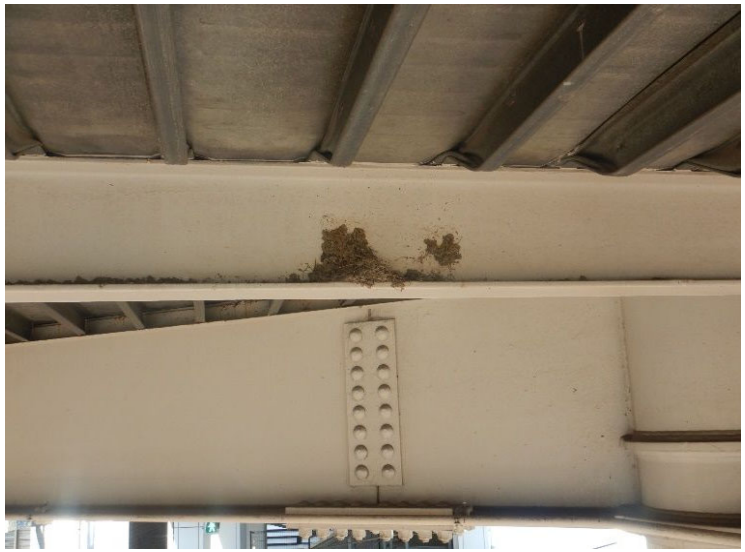
起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造（主桁）【判定区分：　Ⅱ　】	上部構造（横桁）【判定区分：　Ⅱ　】
写真1 主桁01　その他（鳥のふん害）（ブロックD）	写真2  横桁02　その他（鳥の巣）（ブロックA）
その他（高欄）【判定区分：　Ⅱ　】	その他（手すり）【判定区分：　Ⅱ　】
写真3 高欄　ゆるみ・脱落（ブロックE）	写真4 手すり　ゆるみ・脱落（ブロックE）

状況写真（損傷状況）

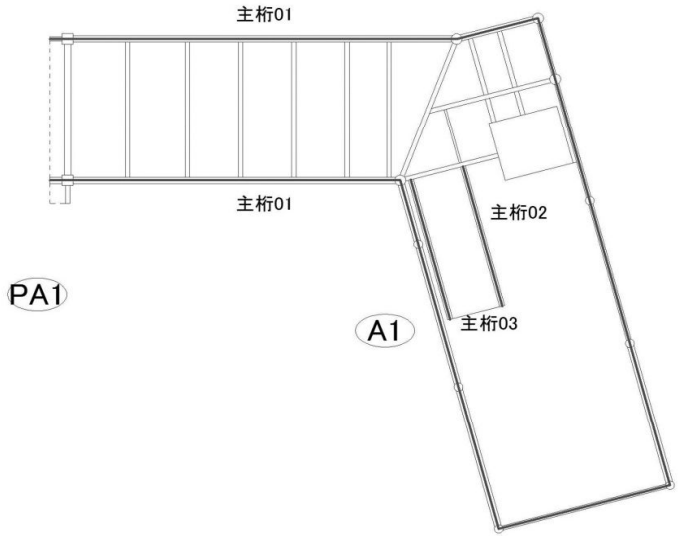
〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

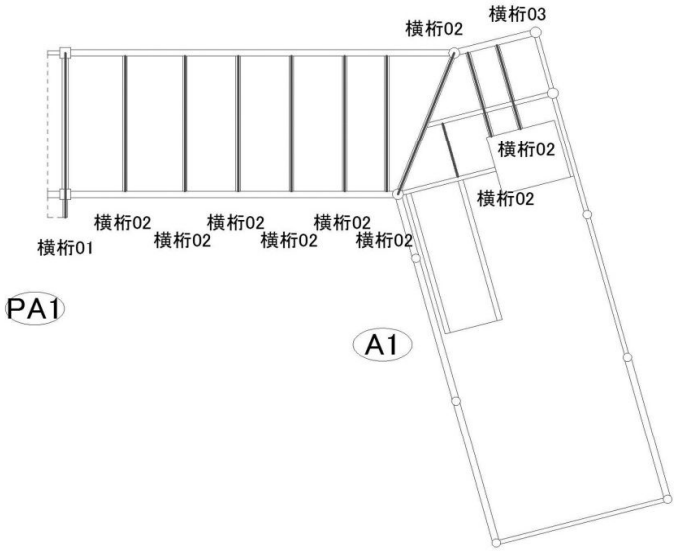
その他（舗装 ）【判定区分：　Ⅱ　】	その他（点検施設）【判定区分：　Ⅱ　】
写真5 舗装　その他（鳥のふん害）（ブロックD）	写真6 点検施設　その他（鳥のふん害）（ブロックD）
【判定区分：　　】	【判定区分：　　】

部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞｭｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

主桁

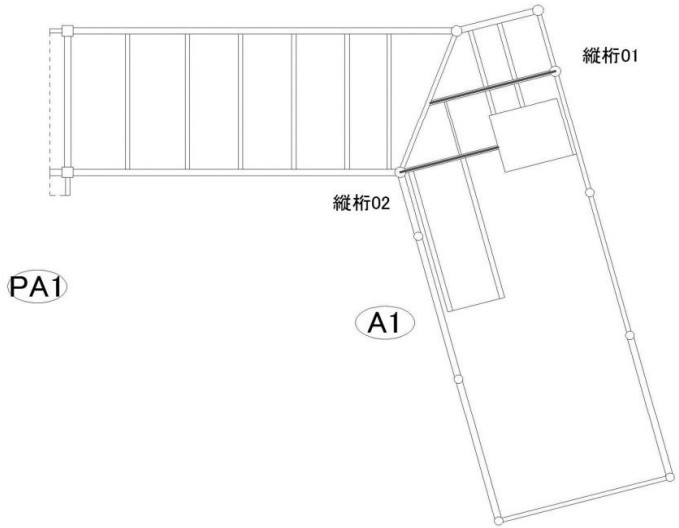


横桁

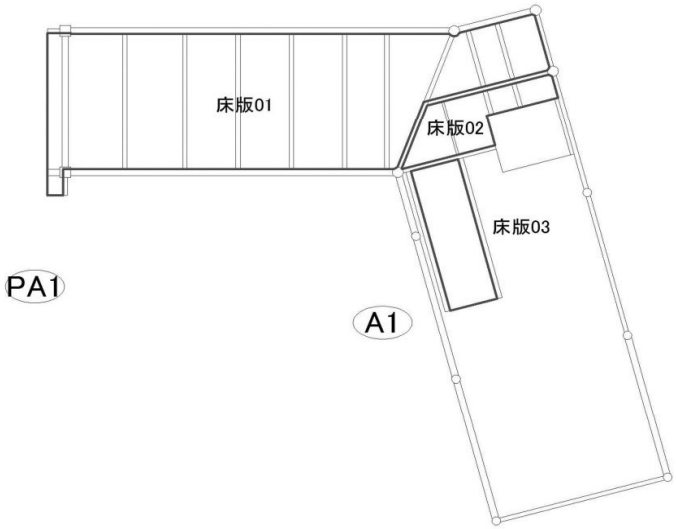


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

縦桁

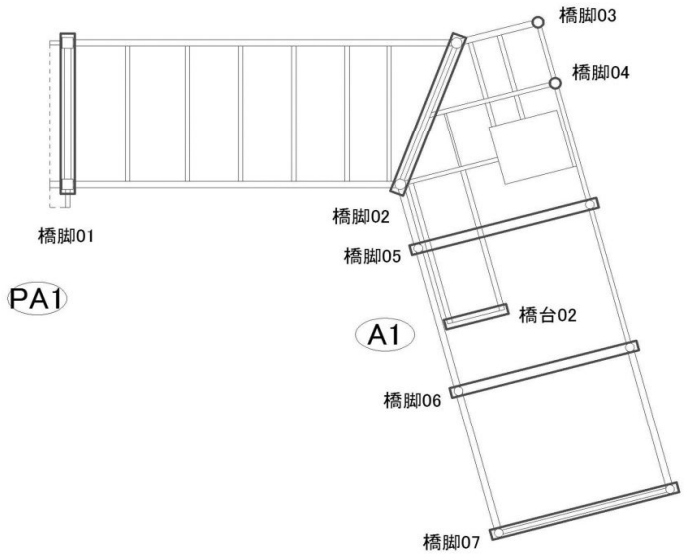


床版

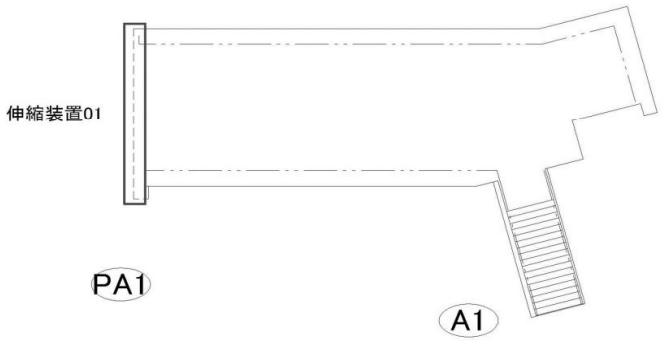


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

橋台,橋脚

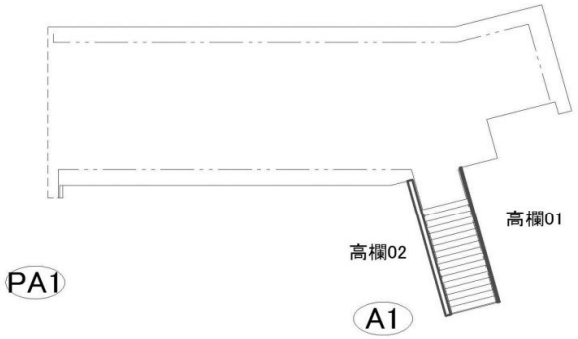


伸縮装置

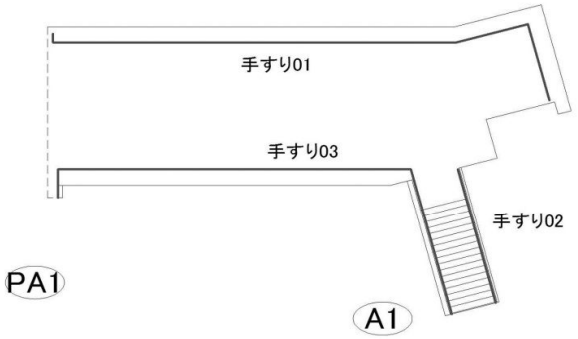


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸA	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

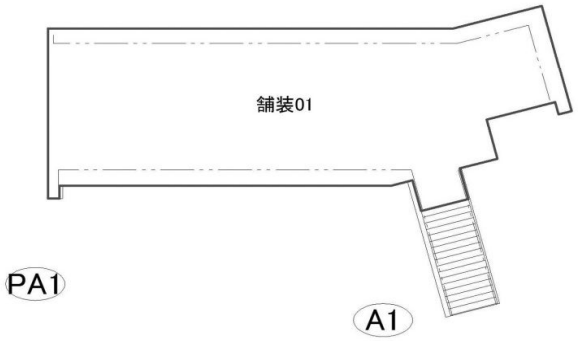
高欄



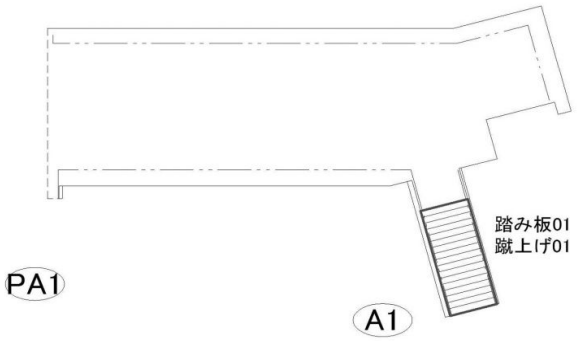
手すり



舗装

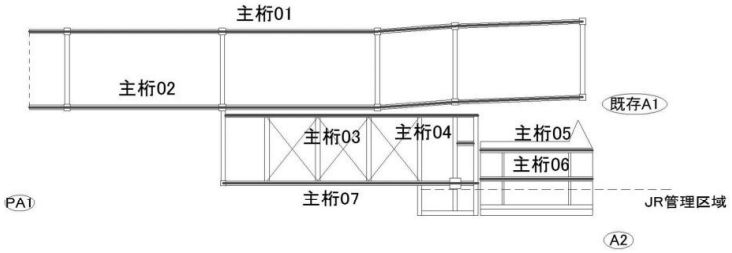


踏み板,蹴上げ

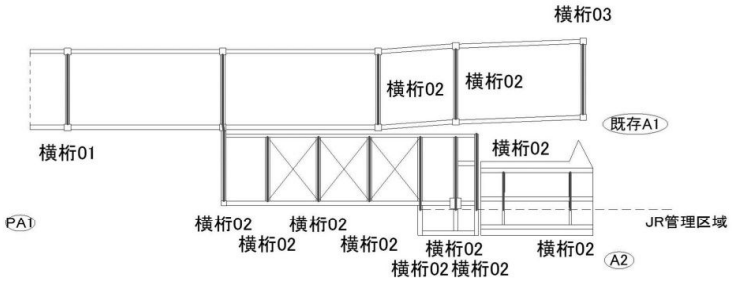


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸB	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

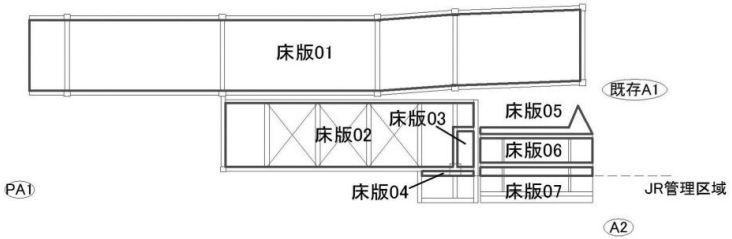
主桁



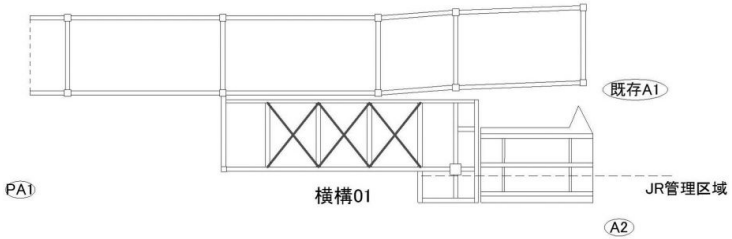
横桁



床版

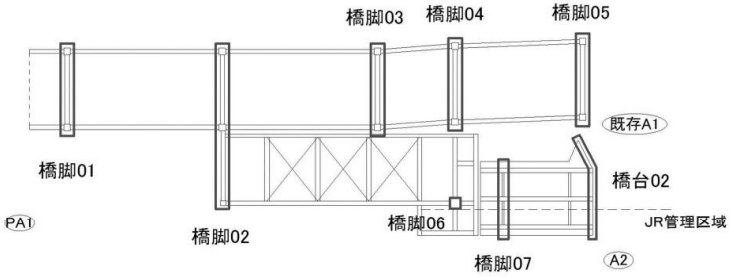


横構

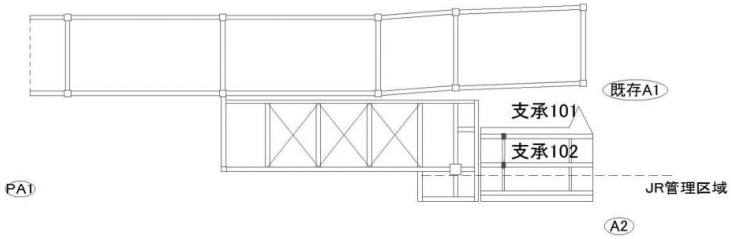


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸB	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

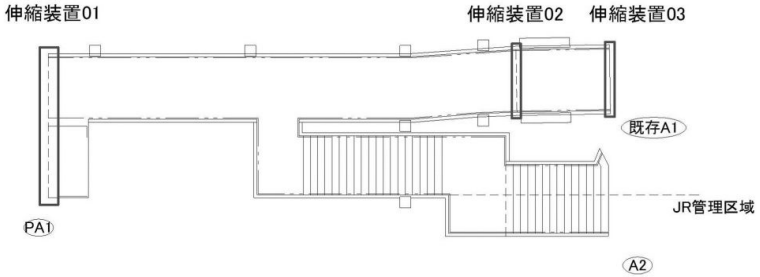
橋台,橋脚



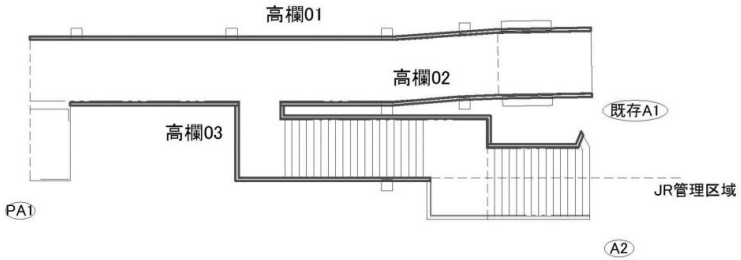
支承



伸縮装置

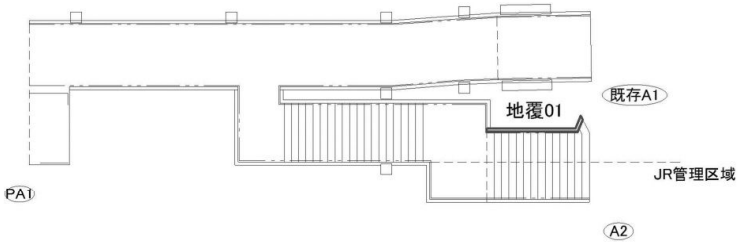


高欄

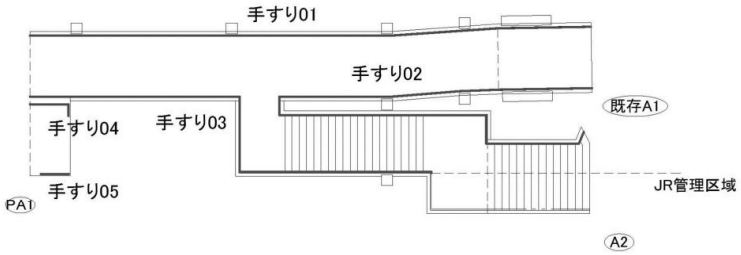


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸB	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

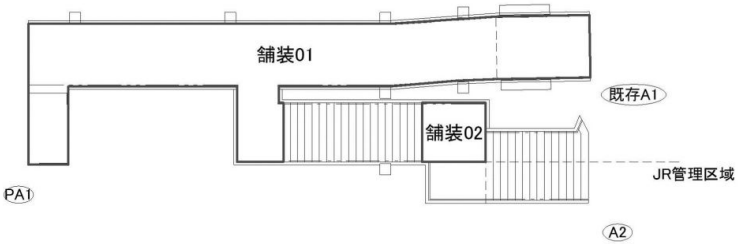
地覆



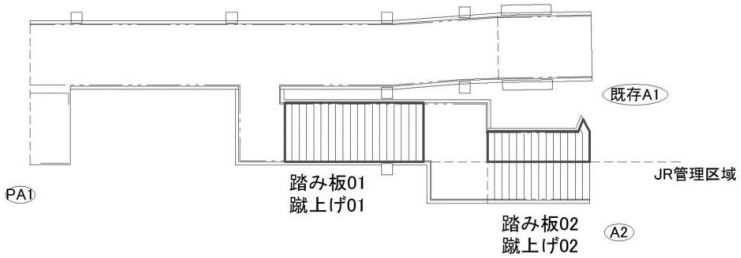
手すり



舗装

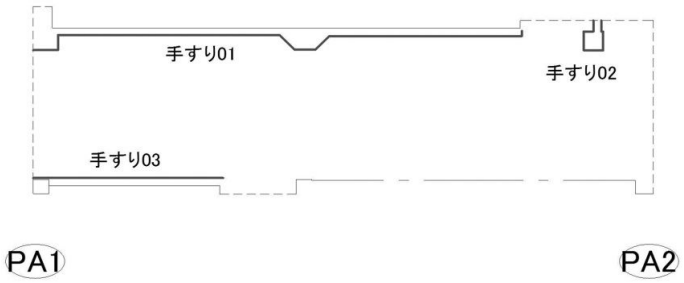


踏み板,蹴上げ

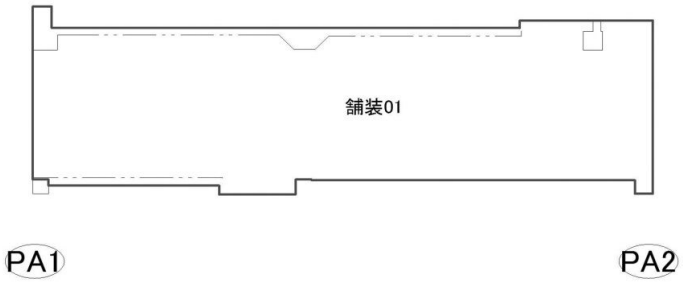


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸC	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

手すり

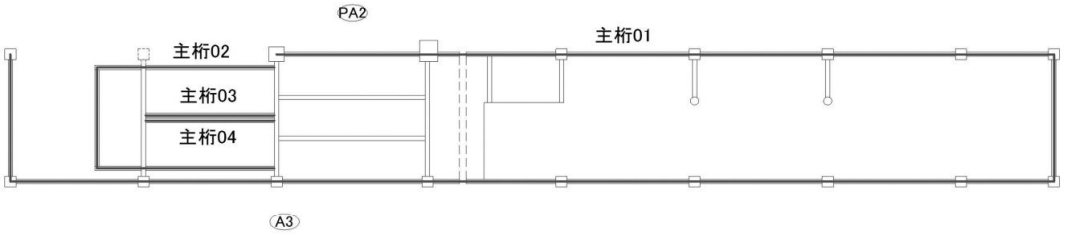


舗装

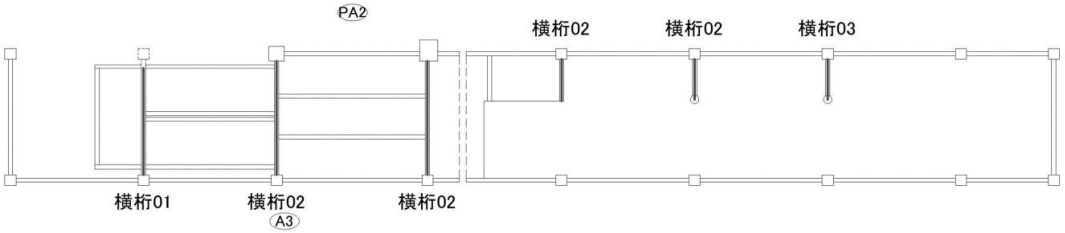


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸD	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

主桁

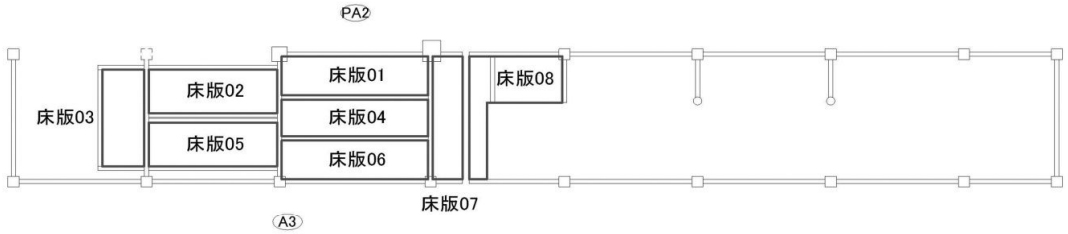


横桁

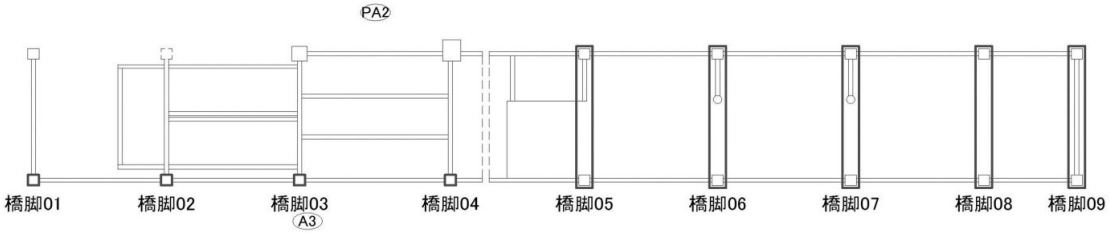


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸD	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

床版

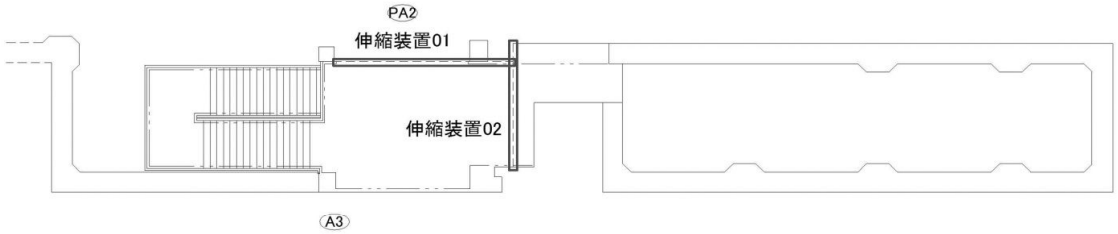


橋台,橋脚

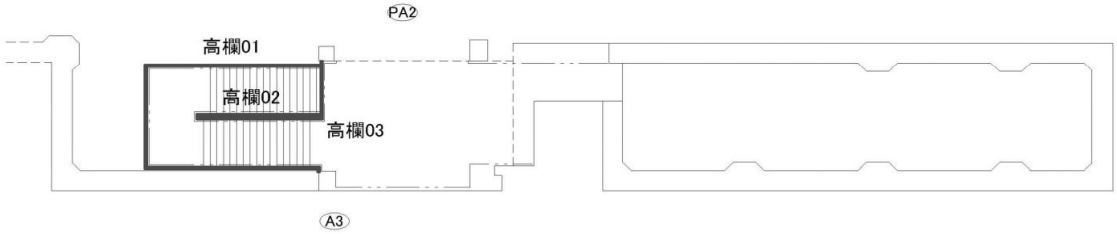


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸD	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

伸縮装置

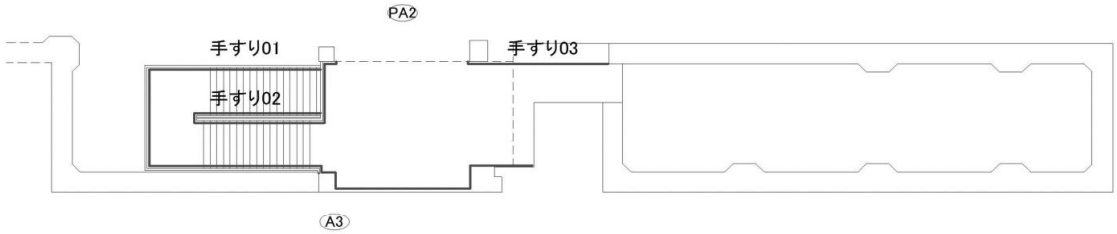


高欄

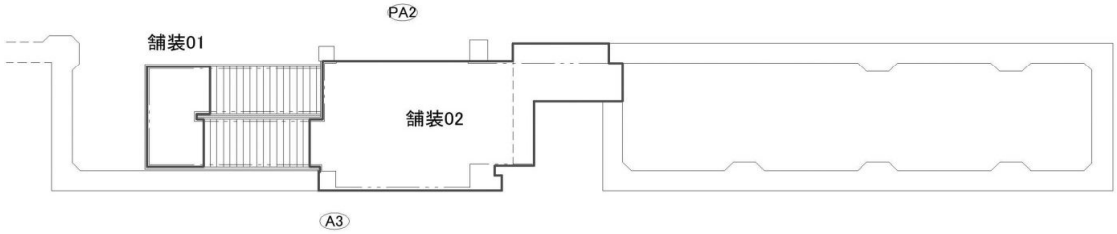


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸD	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

手すり

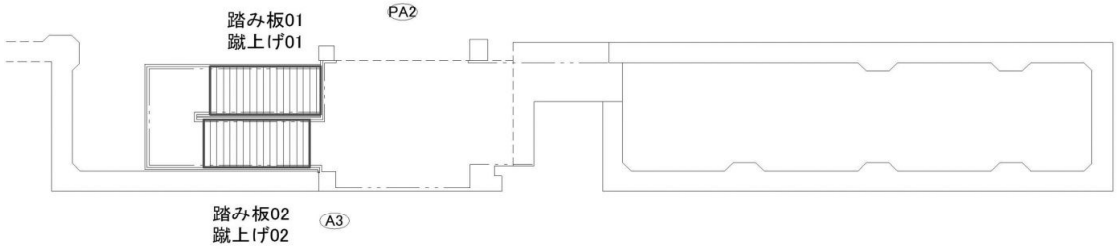


舗装

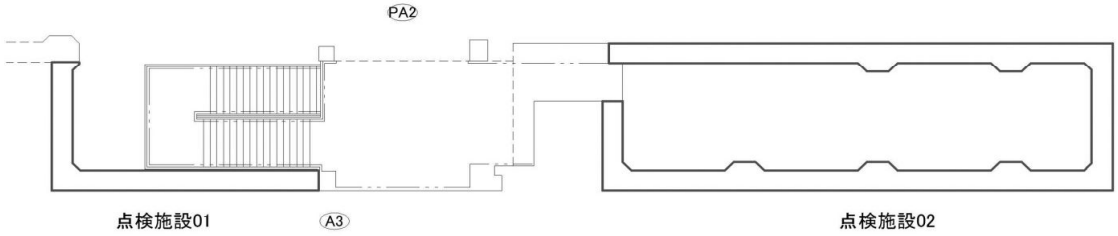


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸD	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

踏み板,蹴上げ

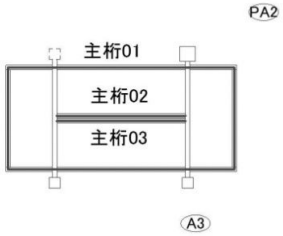


点検施設

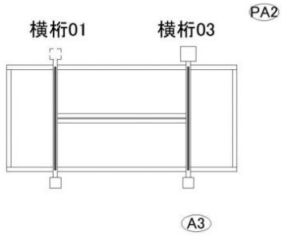


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸE	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

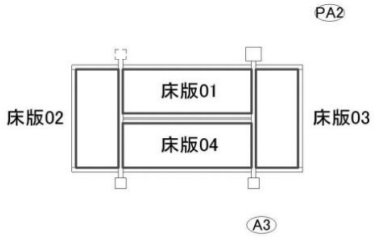
主桁



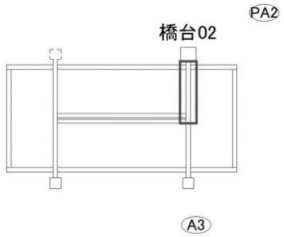
横桁



床版

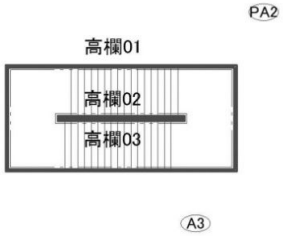


橋台

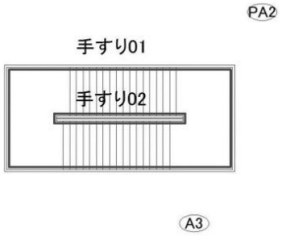


部材番号図	径間番号	ﾌﾞﾛｯｸE	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷｼﾞﾕｳﾂｳﾛ	路線名	長浦駅南北自由通路
			橋梁名	長浦駅自由通路		

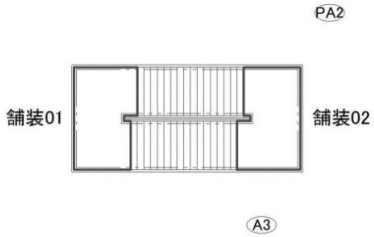
高欄



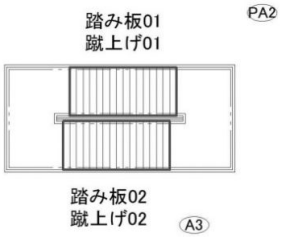
手すり



舗装



踏み板,蹴上げ



27.久保田跨道橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　26′　56.65″	橋梁ID
				経度	140°　00′　46.08″	35.44907,140.01280
久保田跨道橋 (フリガナ)クボタコドウキョウ	法定外道路	袖ケ浦市久保田2028-1地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.12.21	平成通り	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅱ	路面の凹凸、土砂詰まり	写真1-3 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に路面の凹凸、土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	49m	2.50m

橋梁形式
PC斜材付き変形π型ラーメン橋(中空床版)、不明

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

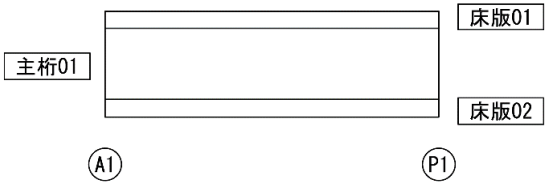
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】
写真1 3径間　舗装　路面の凹凸	写真2 写真1の近接（段差60mm）
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真3 2径間　舗装　土砂詰まり	

付図-1　部材番号図	径間番号	1

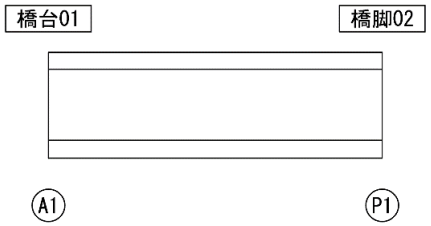
フリガナ 橋梁名	クボタコドウキョウ 久保田跨道橋	路線名	法定外道路	所在地	袖ケ浦市久保田2028-1地先

部材番号図

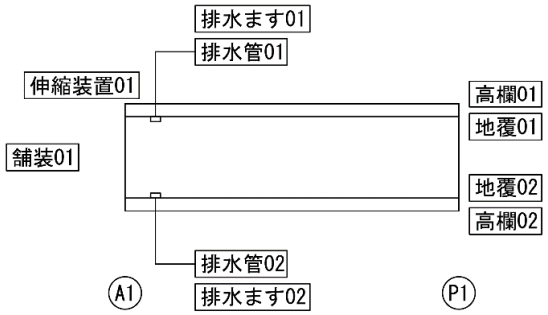
主桁・床版



下部工



高欄・地覆・伸縮装置・排水ます・舗装

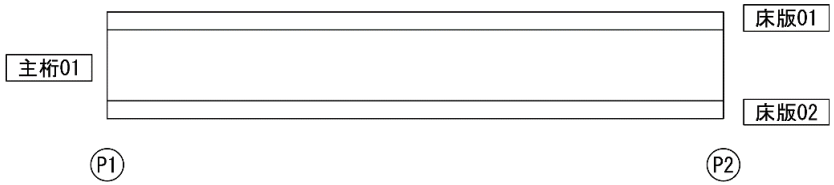


付図-1　部材番号図	径間番号	2

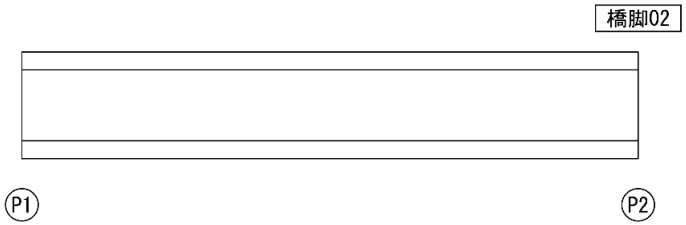
フリガナ 橋梁名	クボタコドウキョウ 久保田跨道橋	路線名	法定外道路	所在地	袖ケ浦市久保田2028-1地先

部材番号図

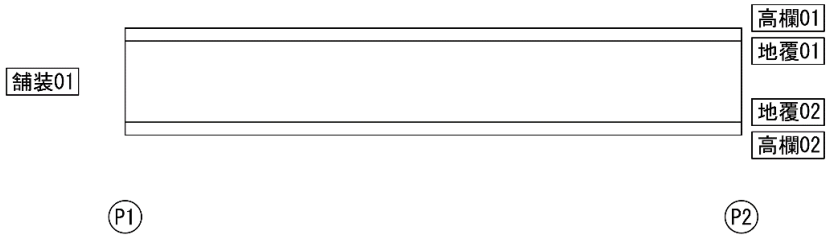
主桁・床版



下部工



高欄・地覆・舗装

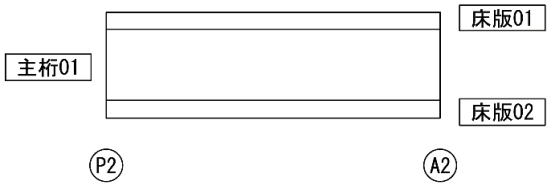


付図-1　部材番号図	径間番号	3

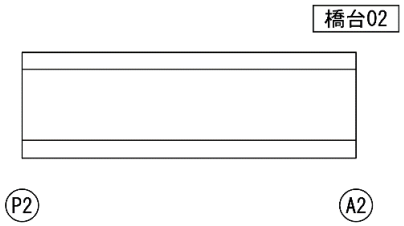
フリガナ 橋梁名	クボタコドウキョウ 久保田跨道橋	路線名	法定外道路	所在地	袖ケ浦市久保田2028-1地先

部材番号図

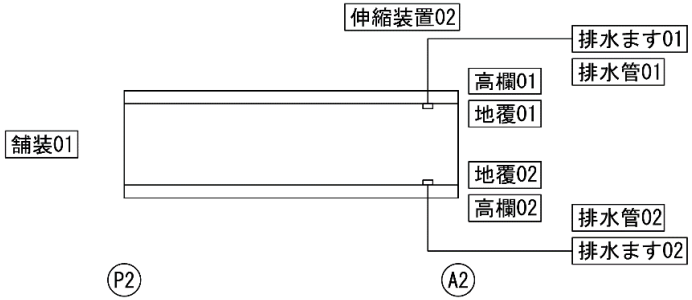
主桁・床版



下部工



高欄・地覆・伸縮装置・排水ます・舗装



28. 長浦駅歩道橋（旧自由通路）

横断歩道橋名・所在地・管理者名等

横断歩道橋名	路線名	所在地	設置位置	緯度	35°27′ 00″	歩道橋ID
長浦駅歩道橋(旧自由通路) (ﾌﾘｶﾞﾅ)ﾅｶﾞｳﾗｴｷﾎﾄﾞｳｷｮｳ(ｷｭｳｼﾞﾕｳﾂｳﾛ)	法定外道路	千葉県袖ケ浦市蔵波47		経度	139°59′ 44″	35.45000,139.99556
管理者名 千葉県袖ケ浦市	定期点検実施年月日	2023年　12月　6日	定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗		

代替路の有無	緊急輸送道路	占用物件(名称)
無	三次	-

部材単位の診断(部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版等	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
階段部		Ⅱ	その他	写真1,2　橋台			
その他		Ⅱ	ゆるみ・脱落、うき	写真3,4,5 手すり、高欄、舗装			

横断歩道橋毎の健全性の診断(対策区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	橋台に落書き、不法占有が見られる。維持工事で対応することが望ましい状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次※1	橋長(m)	通路幅員(m)
1991年	23.7	6.4
横断歩道橋形式		
不明		

※1 ： 架設年次が不明の場合は「不明」と記入とする。

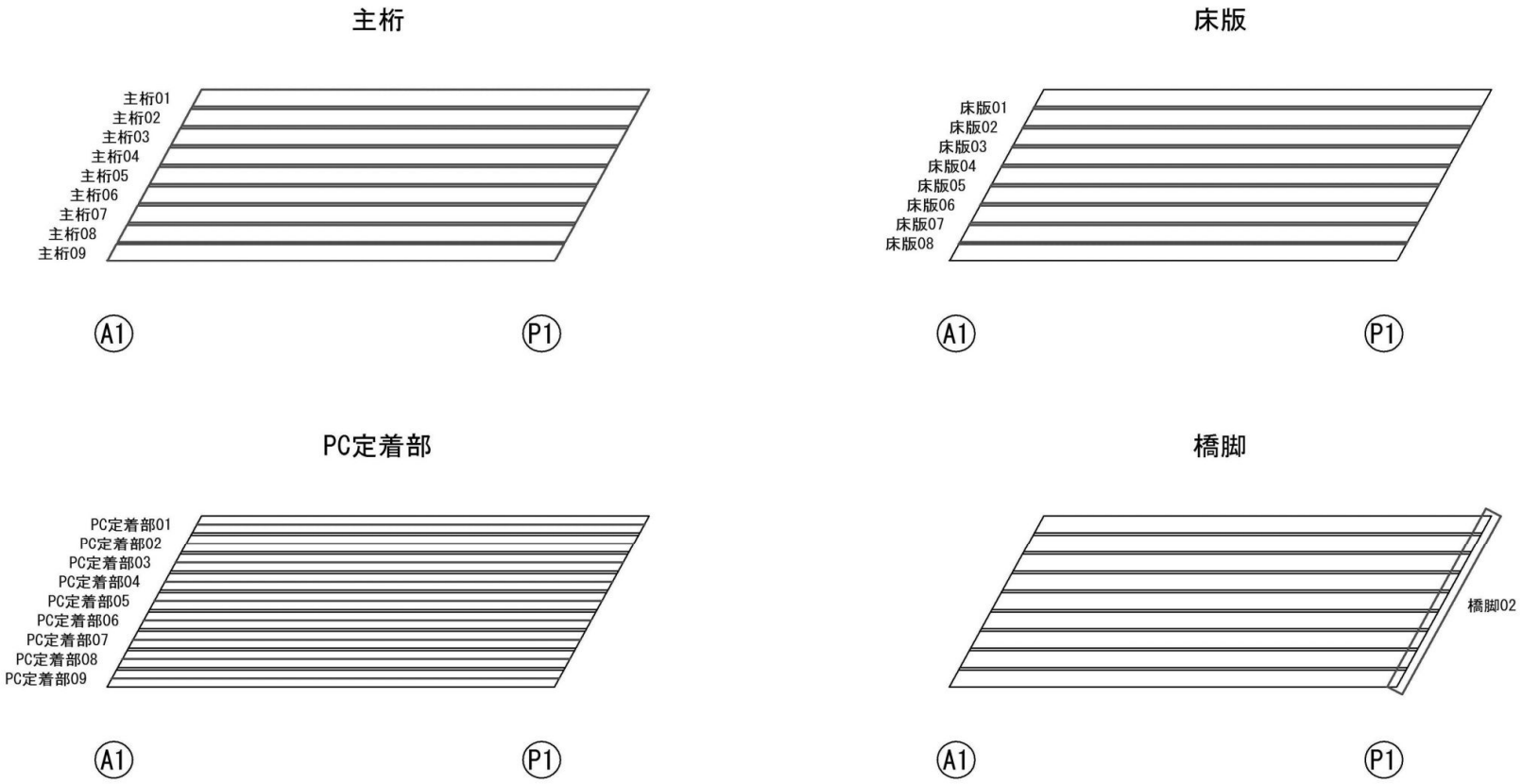
状況写真（損傷状況）
〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

階段部（橋台）【判定区分： Ⅱ 】	階段部（橋台）【判定区分： Ⅱ 】
写真1 橋台　その他(落書き)（2径間）	写真2 橋台　その他(不法占有)（2径間）
その他（手すり）【判定区分： Ⅱ 】	**その他（高欄）【判定区分： Ⅱ 】**
写真3 手すり　ゆるみ・脱落（1径間）	写真4 高欄　うき（1径間）

状況写真（損傷状況）
〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

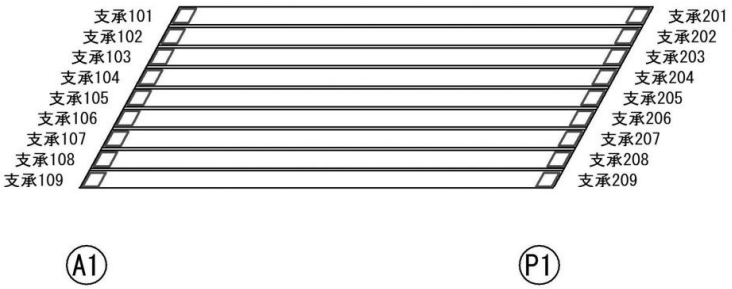
その他（舗装）【判定区分： Ⅱ 】	【判定区分： 】
写真5 舗装　ゆるみ・脱落(ガードパイプのボルトの脱落)（1径間）	
【判定区分： 】	【判定区分： 】

部材番号図	径間番号	1	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷﾎﾄﾞｳｷｮｳ	路線名	町道795号線
			橋梁名	長浦駅歩道橋		

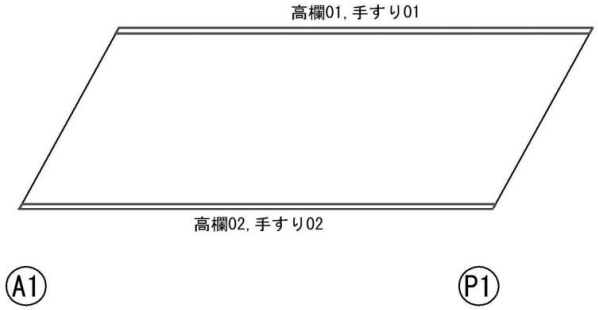


部材番号図	径間番号	1	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷﾎﾄﾞｳｷｮｳ	路線名	町道795号線
			橋梁名	長浦駅歩道橋		

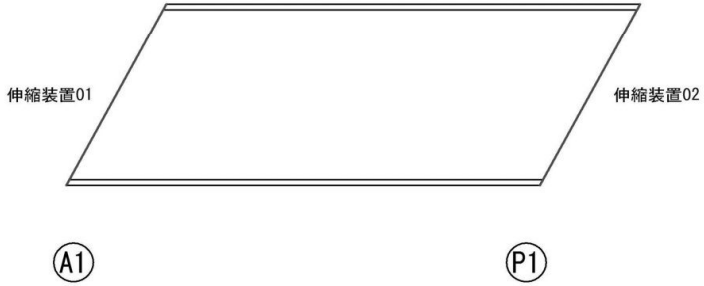
支承



高欄, 手すり



伸縮装置



舗装

部材番号図	径間番号	2-1	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷﾎﾄﾞｳｷｮｳ	路線名	町道795号線
			橋梁名	長浦駅歩道橋		

主桁

P1　A2

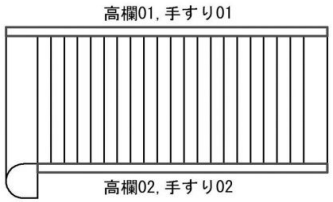
橋台

P1　A2

支承

P1　A2

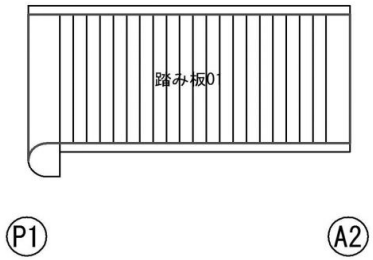
高欄，手すり



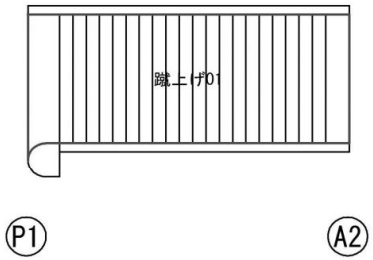
P1　A2

部材番号図	径間番号	2-1	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷﾎﾄﾞｳｷｮｳ	路線名	町道795号線
			橋梁名	長浦駅歩道橋		

踏み板



蹴上げ

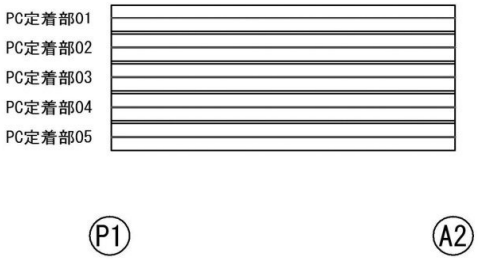


部材番号図	径間番号	2-2	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷﾎﾄﾞｳｷｮｳ	路線名	町道795号線
			橋梁名	長浦駅歩道橋		

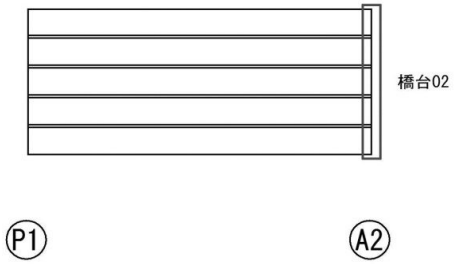
主桁

床版

PC定着部

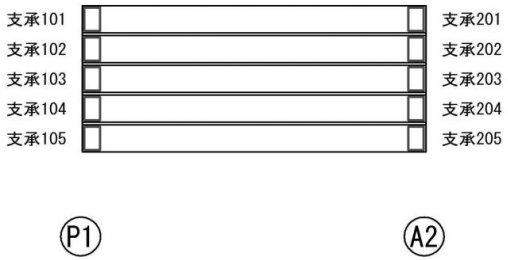


橋台

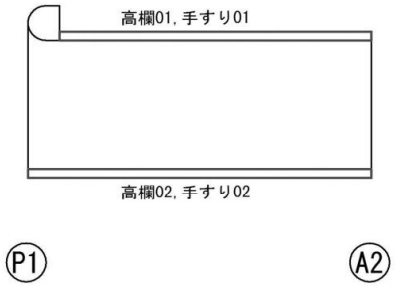


部材番号図	径間番号	2-2	ﾌﾘｶﾞﾅ	ﾅｶﾞｳﾗｴｷﾎﾄﾞｳｷｮｳ	路線名	町道795号線
			橋梁名	長浦駅歩道橋		

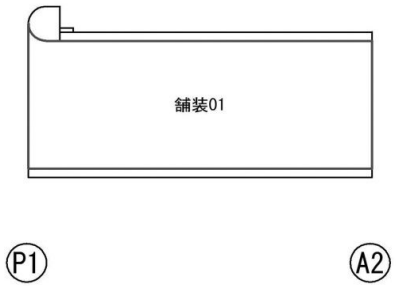
支承



高欄, 手すり



舗装



29. 令和新川橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　26′　18.78″	橋梁ID
				経度	139°　57′　03.17″	35.43855,139.95088
令和新川橋 (フリガナ)レイワシンカワハシ	南袖神納線	袖ヶ浦市奈良輪字新畑1719-2				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2023.12.25	浮戸川	有	一般道	三次	上水道、東京電力

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁	Ⅰ					
	床版	Ⅰ					
下部構造		Ⅰ					
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2021年	45m	18.00m
橋梁形式		
鋼単純非合成鈑桁、逆T式橋台2基		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

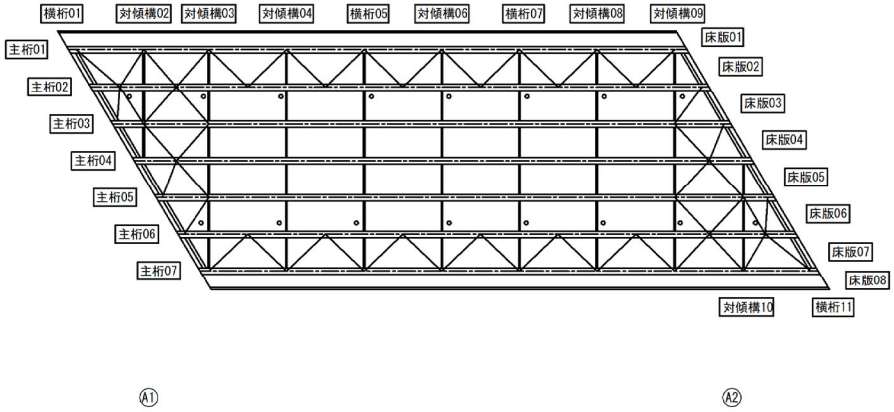
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

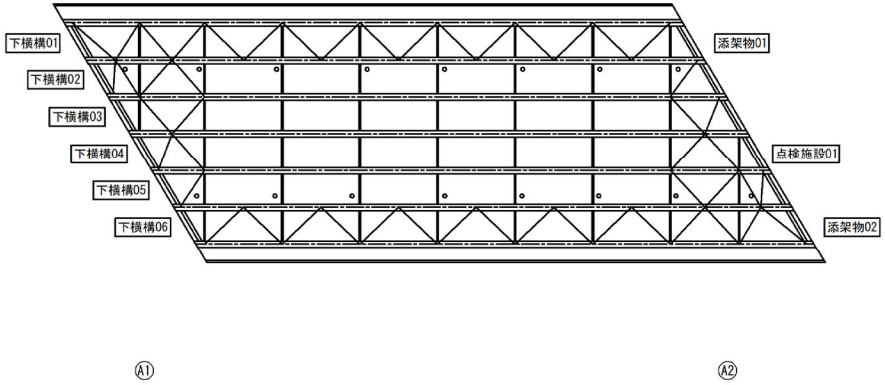
ﾌﾘｶﾞﾅ 橋梁名	（カショウ）レイワシンカワハシ 令和新川橋	路線名	南袖神納線	所在地	袖ケ浦市奈良輪字新畑1719-2地先

部材番号図

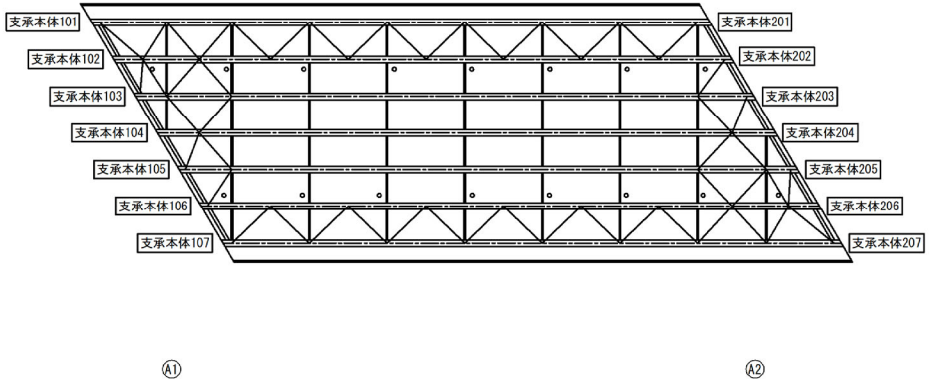
主桁・横桁・床版・対傾構



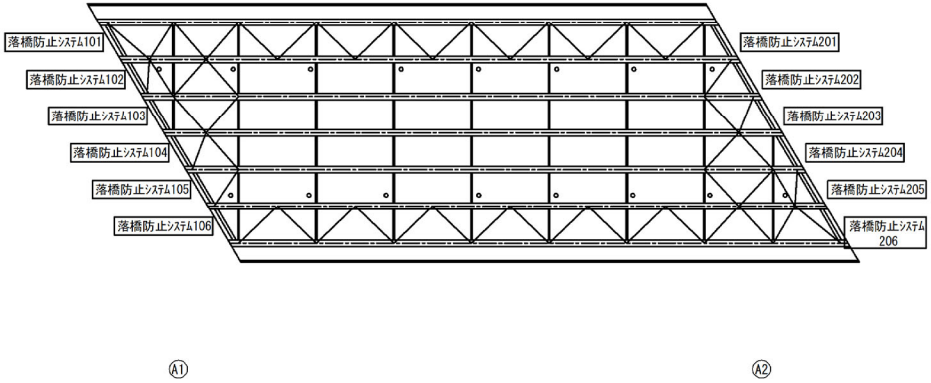
下横構・点検施設・添架物



支承本体



落橋防止ｼｽﾃﾑ

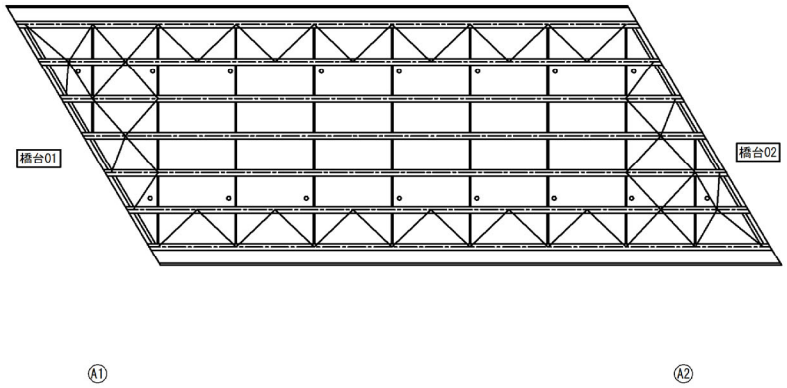


付図-1　部材番号図	径間番号	1

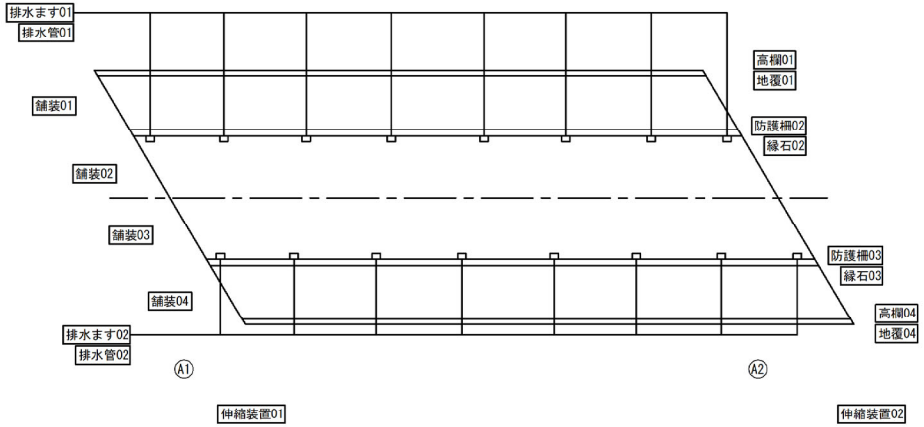
ﾌﾘｶﾞﾅ 橋梁名	（カショウ）レイワシンカワハシ 令和新川橋	路線名	南袖神納線	所在地	袖ケ浦市奈良輪字新畑1719-2地先

部材番号図

橋台



高欄・防護柵・地覆・伸縮装置・縁石・舗装・排水ます・排水管



30. 勝前田橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　47.88″	橋梁ID
				経度	140°　01′　06.20″	35.41330,140.01839
勝前田橋 (フリガナ)カツマエダバシ	勝1号線	袖ケ浦市勝97-2地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.14	岩井第二雨水幹線	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	3m	4.70m
橋梁形式		
現場打ちボックスカルバート		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

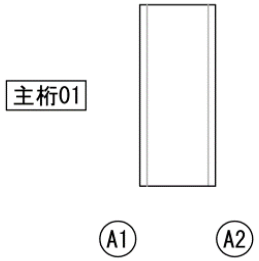
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

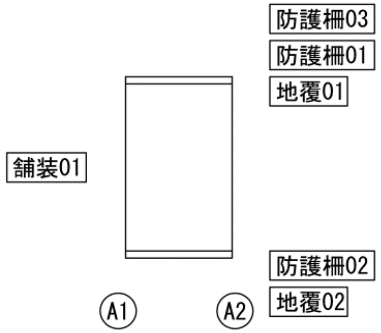
フリガナ 橋梁名	カツマエダバシ 勝前田橋	路線名	勝1号線	所在地	袖ケ浦市勝97-2地先

部材番号図

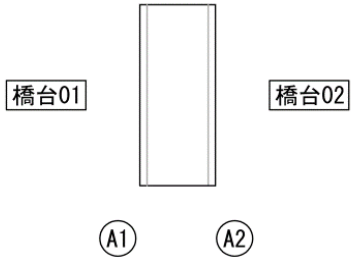
主桁



防護柵・地覆・舗装



下部工



31. 勝丸の内橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　39.85″	橋梁ID
				経度	140°　01′　03.68″	35.41107,140.01769
勝丸の内橋 (フリガナ)カツマルノウチバシ	飯富29号線	袖ケ浦市大曽根432地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.14	岩井第二雨水幹線	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2014年	3m	5.70m
橋梁形式		
現場打ちボックスカルバート		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2　様式1様式2　　様式2

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

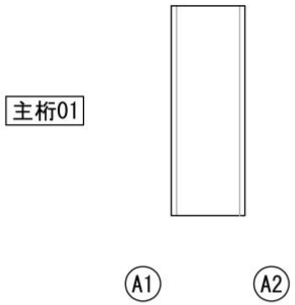
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

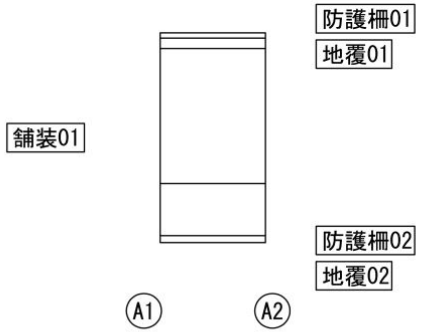
フリガナ 橋梁名	カツマルノウチバシ 勝丸の内橋	路線名	飯富29号線	所在地	袖ケ浦市大曽根432地先

部材番号図

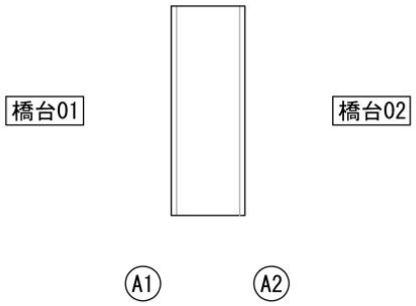
主桁



防護柵・地覆・舗装



下部工



32. 勝井戸田２号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　30.82″	橋梁ID
				経度	140°　01′　00.84″	35.40856,140.01690
勝井戸田2号橋 (フリガナ)カツイトダニゴウバシ	飯富22号線	袖ケ浦市大曽根432地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.14	岩井第二雨水幹線	有	一般道	三次	不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2014年	2m	7.00m
橋梁形式		
プレキャストボックスカルバート		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

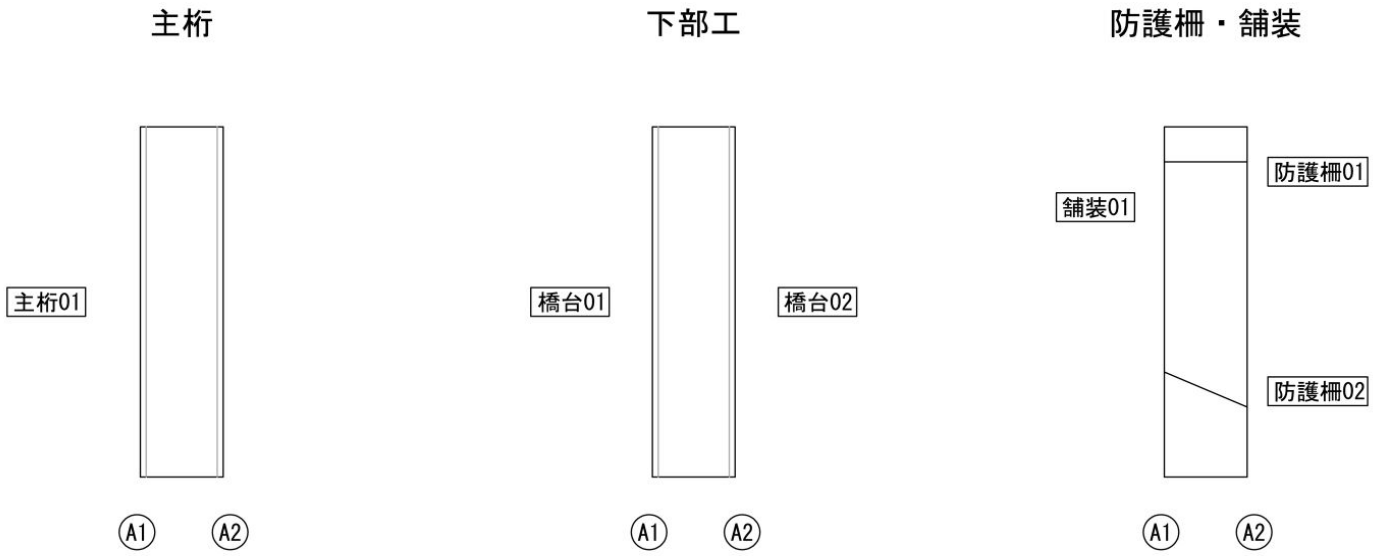
〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-１　部材番号図	径間番号	1

フリガナ 橋梁名	カツイトダニゴウバシ 勝井戸田２号橋	路線名	飯富22号線	所在地	袖ケ浦市大曽根432地先

部材番号図



33. 無名橋(83)

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　24″	橋梁ID
				経度	140°　04′　10″	35.40667,140.06944
無名橋(83) (フリガナ)ムメイキョウ(ハチジュウサン)	川原井林線	袖ケ浦市川原井431地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.13	松川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが生じているが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	5m	34.50m
橋梁形式		
プレキャストボックスカルバート		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

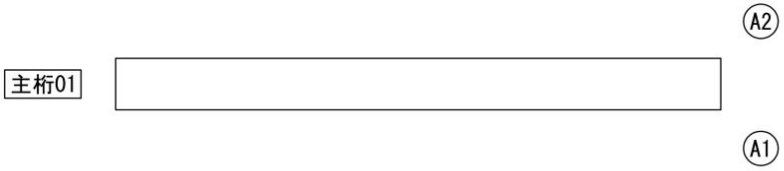
その他（舗装）【判定区分：　Ⅱ　】	【判定区分：　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分：　　】	【判定区分：　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

フリガナ 橋梁名	ムメイキョウ(ハチジュウサン) 無名橋（83）	路線名	川原井林線	所在地	袖ケ浦市川原井431地先

部材番号図

主桁



防護柵・地覆・舗装

下部工

34. 無名橋(84)

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　18.40″	橋梁ID
				経度	140°　04′　13.55″	35.40511,140.07043
無名橋(84) (フリガナ)ムメイキョウ(ハチジュウヨン)	川原井林線	袖ケ浦市川原井412地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.13	松川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅲ	腐食、破断、うき、欠損	写真1、2　防護柵			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	防護柵基部に腐食、破断、うき、欠損が見られるが、道路橋の機能には支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	5m	27.90m
橋梁形式		
プレキャストボックスカルバート		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他（防護柵）【判定区分：　Ⅲ　】	その他（防護柵）【判定区分：　Ⅲ　】
写真1 防護柵　腐食、破断、うき、欠損	写真2 防護柵　腐食、破断、欠損
【判定区分：　　】	【判定区分：　　】

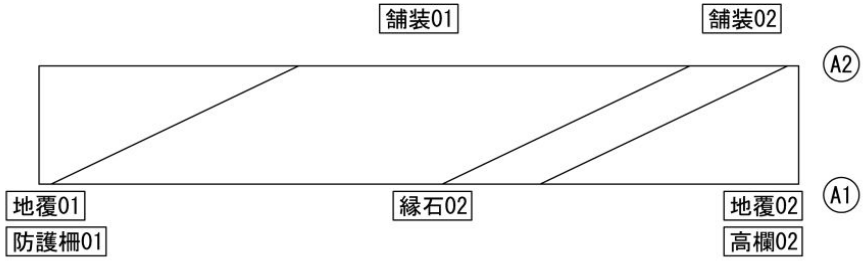
付図-1　部材番号図	径間番号	1

フリガナ 橋梁名	ムメイキョウ(ハチジュウヨン) 無名橋（84）	路線名	川原井林線	所在地	袖ケ浦市川原井412地先

部材番号図

主桁

高欄・防護柵・縁石・地覆・舗装



下部工

35. 無名橋(85)

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　12.64″	橋梁ID
				経度	140°　04′　17.36″	35.40351,140.07149
無名橋(85) (フリガナ)ムメイキョウ(ハチジュウゴ)	川原井林線	袖ケ浦市林5地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.13	松川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅱ	変形・欠損	写真1 防護柵			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	防護柵の反射板に欠損が見られるが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	5m	23.40m
橋梁形式		
プレキャストボックスカルバート		

全景

終点側　起点側

正面　起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他(防護柵)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 防護柵　変形・欠損	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

フリガナ 橋梁名	ムメイキョウ(ハチジュウゴ) 無名橋（85）	路線名	川原井林線	所在地	袖ケ浦市林5地先

部材番号図

主桁

防護柵・地覆・舗装

下部工

36. 無名橋(86)

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　09.72″	橋梁ID
				経度	140°　04′　19.34″	35.40270,140.07204
無名橋(86) (フリガナ)ムメイキョウ(ハチジュウロク)	高谷林線	袖ケ浦市林43地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.13	松川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	3m	11.40m
橋梁形式		
プレキャストボックスカルバート		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

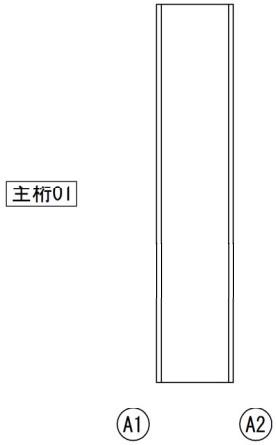
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

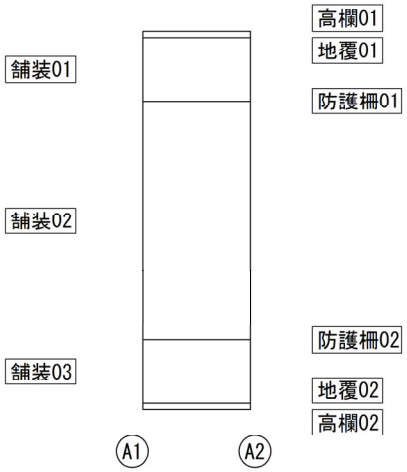
フリガナ 橋梁名	ムメイキョウ(ハチジュウロク) 無名橋（86）	路線名	高谷林線	所在地	袖ケ浦市林43地先

部材番号図

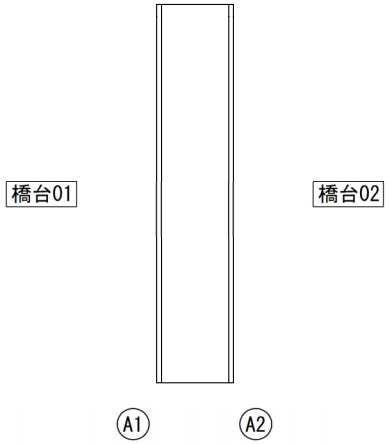
主桁



高欄・防護柵・地覆・舗装



下部工



37. 百目木蔵之助橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　22′　26.90″	橋梁ID
				経度	140°　02′　25.26″	35.37414,140.04035
百目木蔵之助橋 (フリガナ)ドウメキクラノスケバシ	百目木4号線	袖ケ浦市百目木856地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.14	常盤川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録

(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが生じているが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2018年	2m	6.40m
橋梁形式		
プレキャストボックスカルバート		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2　様式1様式2　　様式2

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

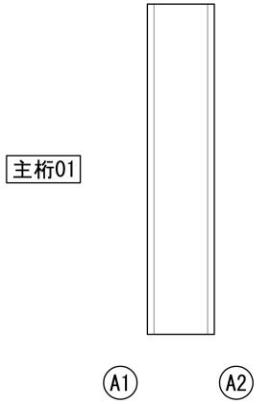
その他(舗装)【判定区分:　Ⅱ　】	【判定区分:　　】
写真1 舗装　土砂詰まり	
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

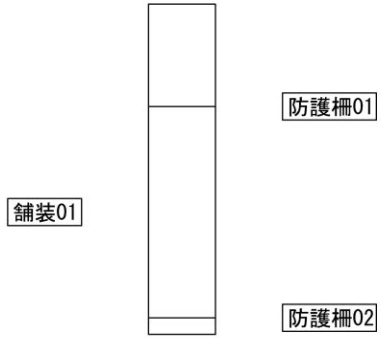
フリガナ 橋梁名	ドウメキクラノスケバシ 百目木蔵之助橋	路線名	百目木4号線	所在地	袖ケ浦市百目木856地先

部材番号図

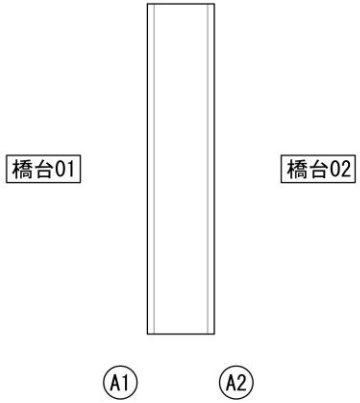
主桁



防護柵・舗装



下部工



38. 無名橋(136)

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　24′　11″	橋梁ID
				経度	140°　04′　19″	35.40306,140.07194
無名橋(136) (フリガナ)ムメイキョウ(ヒャクサンジュウロク)	川原井林線	袖ケ浦市林39地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.13	松川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅰ					

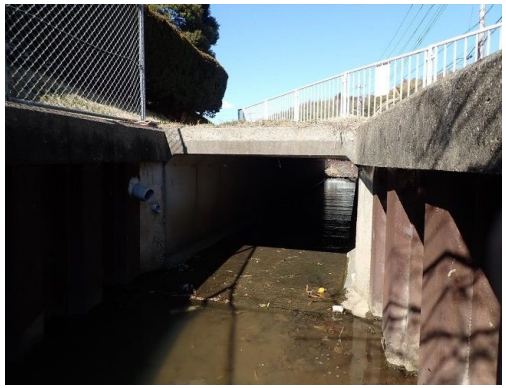
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	3m	19.46m
橋梁形式		
プレキャストボックスカルバート		

全景



起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

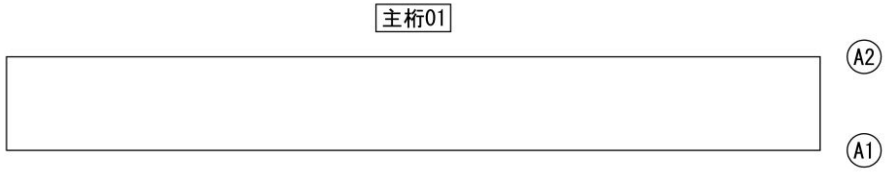
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

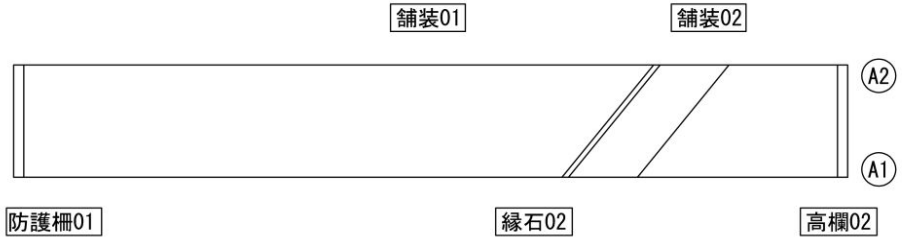
ﾌﾘｶﾞﾅ 橋梁名	ﾑﾒｲｷｮｳ(ﾋｬｸｻﾝｼﾞｭｳﾛｸ) 無名橋(136)	路線名	川原井林線	所在地	袖ケ浦市林39地先

部材番号図

主桁



高欄・防護柵・縁石・舗装



下部工

39. ボックスカルバート⑧

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　23′　08″	橋梁ID
				経度	140°　02′　37″	35.38556,140.04361
ボックスカルバート⑧ (フリガナ)ボックスカルバートハチ	三箇15号線	袖ケ浦市三箇1042-10地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.14	水路	有	一般道	三次	上水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	3m	4.62m
橋梁形式		
プレキャストボックスカルバート		

全景

起点側

終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

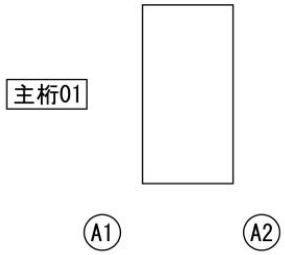
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】
【判定区分:　　】	【判定区分:　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

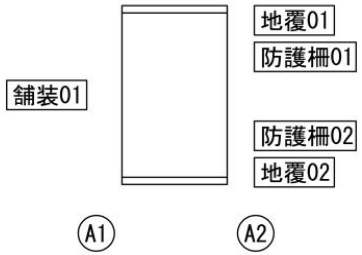
フリガナ 橋梁名	ボックスカルバートハチ ボックスカルバート⑧	路線名	三箇15号線	所在地	袖ケ浦市三箇1042-10地先

部材番号図

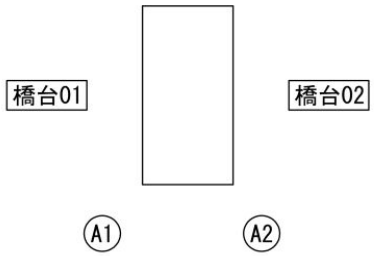
主桁



防護柵・地覆・舗装



下部工



40. ボックスカルバート③

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35°　26′　34″	橋梁ID
				経度	140°　01′　57″	35.44278,140.03250
ボックスカルバート③ (フリガナ)ボックスカルバートサン	代宿横田線	袖ケ浦市久保田代宿入会地1-55地先				

管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ケ浦市	2024.2.14	久保田川	有	一般道	三次	無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)　　定期点検者　開発虎ノ門コンサルタント(株)　漆畑　雄一朗

定期点検時に記録					応急措置後に記録		
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅰ					
支承部							
その他		Ⅱ	土砂詰まり	写真1、2　舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	舗装に土砂詰まりが生じているが、道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
不明	3m	27.70m
橋梁形式		
プレキャストボックスカルバート		

全景

起点側　　終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

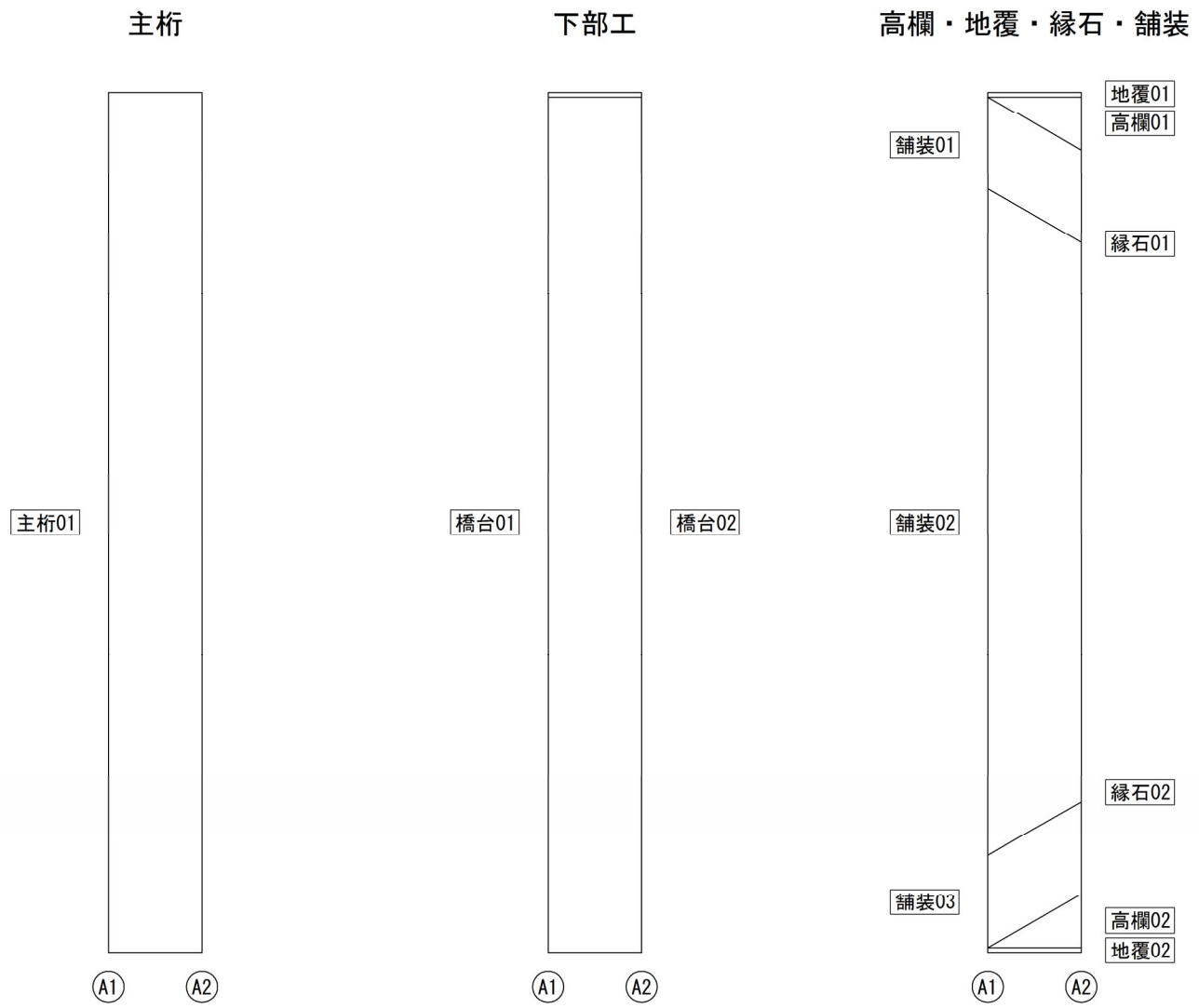
状況写真（損傷状況）

〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他（舗装）【判定区分：　Ⅱ　】	その他（舗装）【判定区分：　Ⅱ　】
写真1 舗装　土砂詰まり	写真2 舗装　土砂詰まり
【判定区分：　　】	【判定区分：　　】

付図-1　部材番号図	径間番号	1

フリガナ 橋梁名	ボックスカルバートサン ボックスカルバート③	路線名	代宿横田線	所在地	袖ケ浦市久保田代宿入会地1-55地先

部材番号図